

日本経済・関西経済の現況と予測

第149回 景気分析と予測
&

Kansai Economic Insight Quarterly No.70

2024年8月28日

アジア太平洋研究所 研究統括兼数量経済分析センター長

甲南大学 経済学部名誉教授

稲田 義久

マクロ経済分析プロジェクト

Outline

1. **Executive summary** p.3
2. **「第149回 景気分析と予測」の概要**
 - 日本経済の現況 p.5-17
 - 予測結果の解説 p.18-23
3. **「Kansai Economic Insight Quarterly No.70」の概要**
 - 予測の要旨 p.25-26
 - 関西経済の現況 p.27-34
 - 予測結果の解説 p.35-39
4. **トピックス**
 - ポスト万博を見据えた観光戦略 p.40-44

【日本経済予測の要旨】

実質賃金のプラス反転により、緩やかな回復を予測

- 実質GDP成長率予測：24年度+0.4%、25年度+1.2% -

【関西経済予測の要旨】

内需の下支えにより緩やかに持ち直している

リスクの多様化に伴う先行き不透明感の強まりに注意

【参考】 前回予測の要旨

- 日本経済「自動車減産の影響は一時的、緩やかな回復を予測」
- 関西経済「足踏み局面から緩やかな持ち直しへ-先行きの回復は企業の賃上げペース次第-」

第149回 景気分析と予測 日本経済予測資料

マクロ経済分析プロジェクト Contributors

APIR研究統括兼数量経済分析センター長・

甲南大学経済学部名誉教授 稲田義久

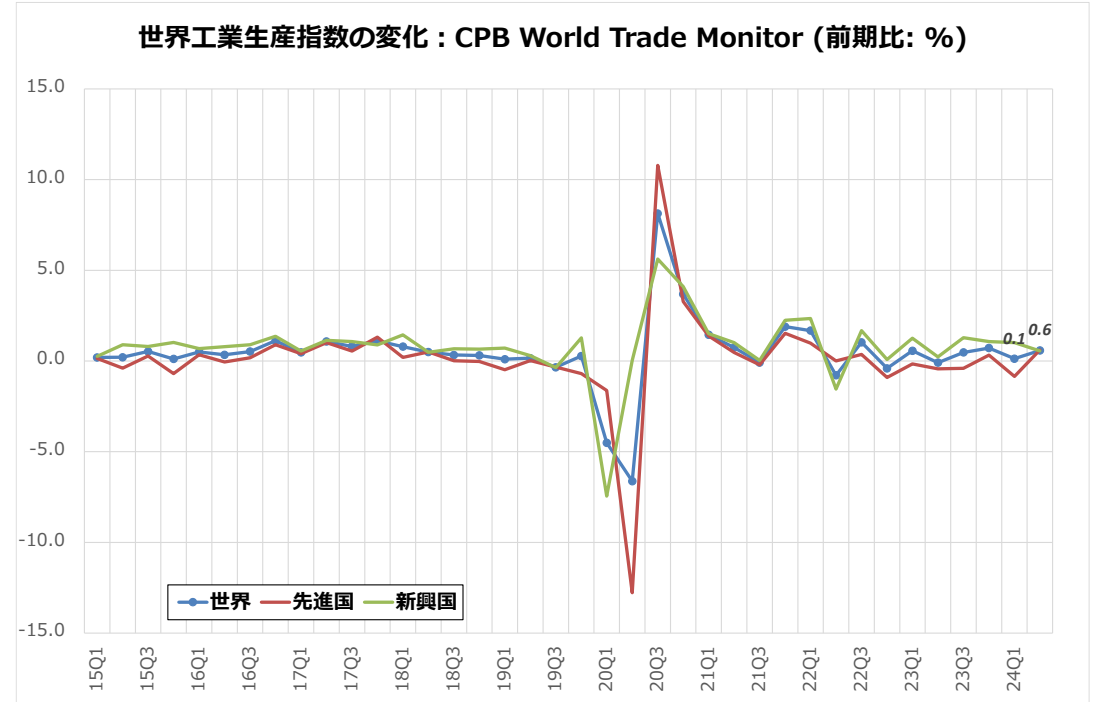
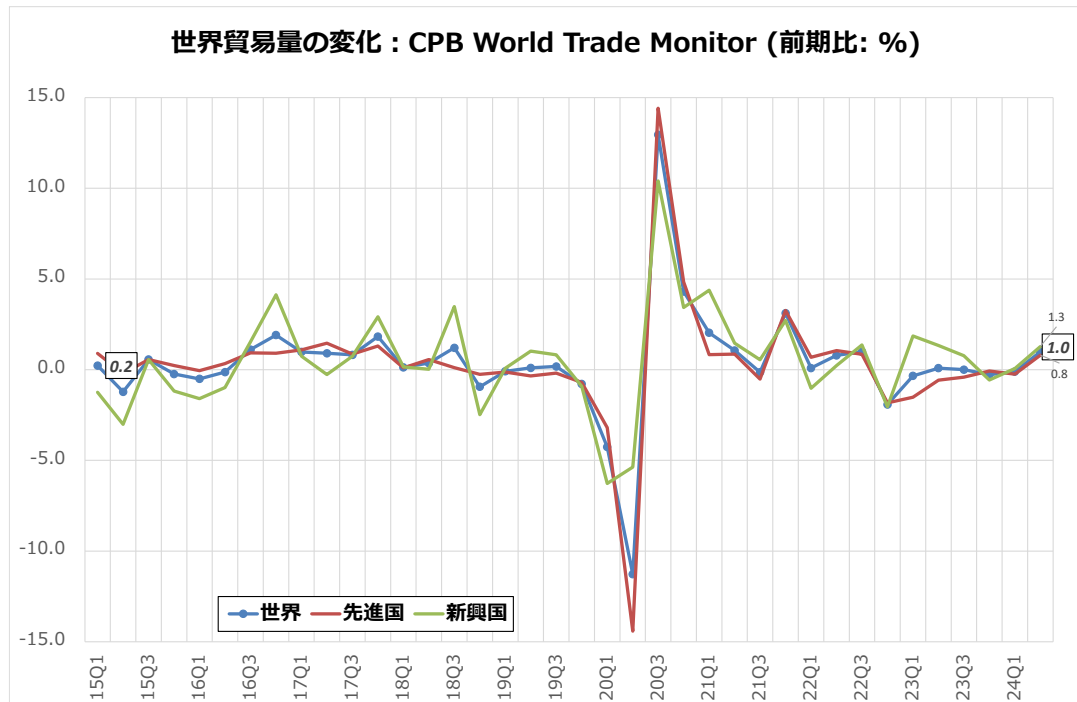
日本アプライドリサーチ研究所主幹研究員 下田充



【QRコードより
本予測説明動画が8/29から
視聴可能予定】

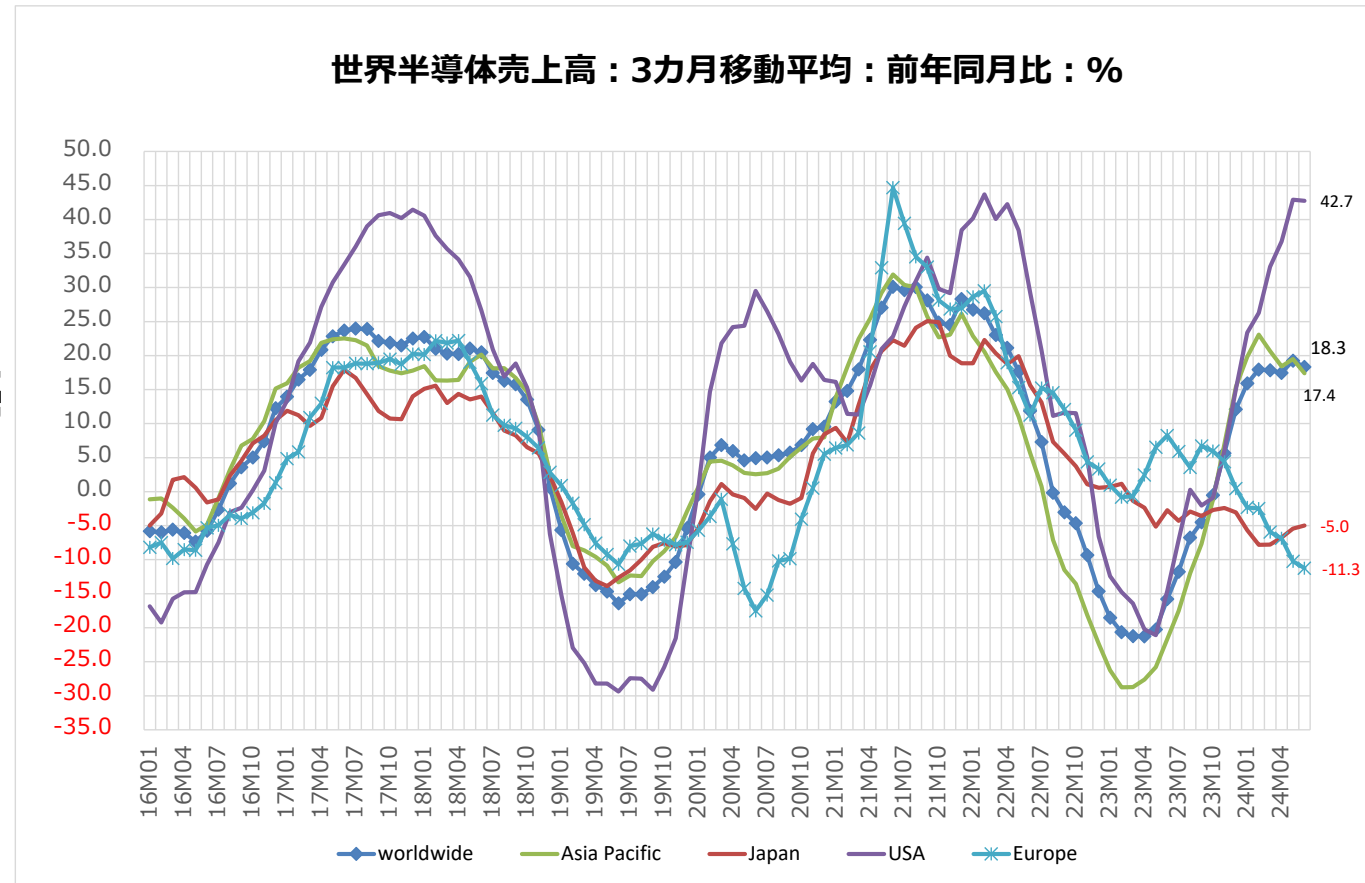
世界貿易は底打ちから、回復基調へ

- 2024年6月の**世界貿易**(数量ベース)は前月比+0.7%と2カ月ぶりの増加。**4-6月期**は前期比+1.0%増加、**3四半期連続**で拡大、加速。**世界貿易の回復基調**が見えてきた
- **4-6月期**の**世界工業生産指数**は前期比+0.5%と**4四半期連続**で上昇。新興国は同+0.5%と**8四半期連続**の上昇、**先進国**は同+0.6%と**2四半期ぶり**の上昇。先進国の回復は輸出ウエイトが高い**日本には良い知らせ**



世界半導体売上は回復が続く：アジア、米国市場を中心に

- **6月の世界半導体売上高(3カ月移動平均)は前年同月比+18.3%と8カ月連続のプラス**。23年11月に16カ月ぶりに同+5.7%と増加に転じ、12月以降二桁の伸びを記録
- **AI関連需要の拡大もあり、半導体売上は回復持続が期待**
- **地域別にみれば、アジア及び米国の売上高は8カ月連続の増加**。一方、ヨーロッパは6カ月連続、日本は16カ月連続の減少
- **日本の半導体売上は底打ちの兆し**



出所：CPB World Trade Monitor. World Semiconductor Trade Statistics

2. 「第149回 景気分析と予測」の概要：景気の現況

4-6月期：内需は5四半期ぶりのプラス、純輸出は2四半期連続のマイナス

実質GDPと項目の成長率(前期比、%)

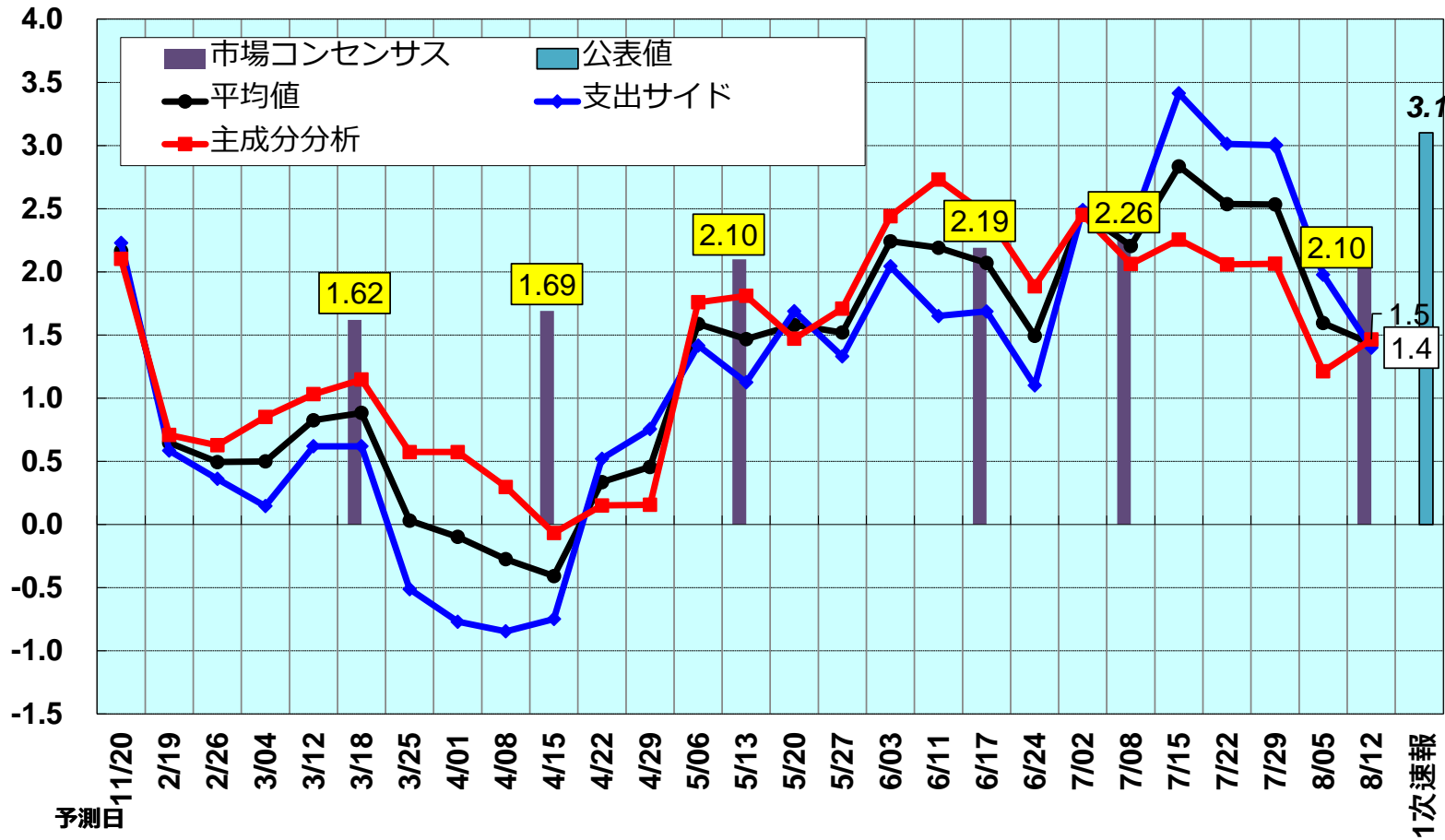
	GDP年率	GDP	国内需要	民間需要	民間最終消費支出	民間住宅	民間企業設備	民間在庫変動	公的需要	政府最終消費支出	公的固定資本形成	公的在庫変動	純輸出	輸出	輸入	GDI
			寄与度	寄与度				寄与度	寄与度				寄与度	寄与度		
20Q3	23.6	5.4	2.6	2.2	5.3	-5.0	0.0	-0.5	0.4	2.3	-1.6	0.0	2.8	9.7	-7.5	5.3
20Q4	7.4	1.8	1.4	1.2	1.9	0.0	1.8	-0.1	0.2	0.8	0.5	0.0	0.4	8.6	5.7	2.0
21Q1	1.4	0.4	0.1	0.1	-1.4	1.6	1.5	0.6	0.0	-0.2	-0.4	0.0	0.3	4.1	2.3	-0.4
21Q2	1.8	0.4	0.7	0.5	0.3	1.8	2.1	-0.1	0.2	1.9	-3.2	0.0	-0.3	3.0	4.9	-0.1
21Q3	-1.5	-0.4	-0.5	-0.7	-1.2	-1.2	-1.4	0.2	0.2	1.2	-1.6	0.0	0.2	-0.8	-1.8	-1.0
21Q4	5.2	1.3	1.4	1.7	3.1	-0.6	0.3	0.0	-0.3	-1.1	-1.2	0.0	-0.1	-0.5	0.0	0.8
22Q1	-1.9	-0.5	-0.3	-0.2	-1.2	-0.9	0.4	0.5	-0.1	0.6	-4.1	0.0	-0.2	3.2	4.4	-1.0
22Q2	4.3	1.1	1.0	1.0	1.9	-2.8	2.3	-0.3	0.0	0.9	-4.3	0.0	0.1	1.8	1.4	0.1
22Q3	-1.2	-0.3	0.4	0.4	0.1	0.1	2.1	0.0	0.0	0.0	1.1	-0.1	-0.7	1.6	5.2	-0.8
22Q4	1.7	0.4	0.1	-0.2	0.2	0.7	-1.2	-0.1	0.2	0.6	0.9	0.1	0.4	0.9	-0.9	0.9
23Q1	5.2	1.3	1.3	1.2	0.7	0.9	2.3	0.4	0.1	0.0	2.6	0.0	0.0	-2.1	-1.7	1.8
23Q2	2.4	0.6	-1.1	-0.8	-0.8	1.4	-2.1	-0.1	-0.2	-1.2	1.0	0.0	1.7	3.2	-4.1	1.1
23Q3	-4.0	-1.0	-0.7	-0.8	-0.3	-1.2	-0.1	-0.5	0.0	0.6	-1.9	0.0	-0.3	0.1	1.3	-0.6
23Q4	0.3	0.1	-0.1	0.0	-0.3	-1.1	2.1	-0.1	-0.1	-0.1	-1.7	0.0	0.2	3.0	2.0	0.1
24Q1	-2.3	-0.6	-0.1	-0.2	-0.6	-2.6	-0.4	0.3	0.0	0.3	-1.1	0.0	-0.5	-4.6	-2.5	-0.7
24Q2	3.1	0.8	0.9	0.6	1.0	1.6	0.9	-0.1	0.2	0.1	4.5	0.0	-0.1	1.4	1.7	0.8

注：国内需要、民間需要、公的需要、在庫変動と純輸出は寄与度。
出所：内閣府『国民経済計算』よりAPIR作成

- 4-6月期の実質GDP成長率(前期比+0.8%)への寄与度を見ると、国内需要は同+0.9%ポイントと5四半期ぶりのプラス寄与。うち、民間最終消費支出、民間住宅及び民間企業設備はいずれも増加。一方、純輸出は同-0.1%ポイントと2四半期連続のマイナス寄与
- 4-6月期は前期の不正問題発覚に伴う自動車減産の一時的な影響が剥落し、民間最終消費支出、民間企業設備や輸出が増加した

4-6月期超短期予測の動態

超短期予測の動態：実質GDP成長率、2024Q2(前期比年率：%)



- GDP1次速報によれば、4-6月期の実質GDPは前期比年率+3.1% (前期比+0.8%)増加し、2四半期ぶりのプラス成長
- 実績は市場コンセンサス(ESPフォーキャスト8月調査)の最終予測(同+2.10%)から上振れた
- CQM最終予測のうち、支出サイドは同+1.4%、生産サイドは同+1.5%、両者の平均は同+1.4%となり、実績を下回った
- その主要な理由は民間最終消費支出の過少予測

本予測はペンシルバニア大学クライン名誉教授によって開発された超短期モデル(Current Quarter Model)のアイデアを日本経済に適用したものである。本予測システムでは、毎週発表されたデータの景気への影響を調べることができる。予測は支出サイド、生産サイド(主成分分析)の2つのモデルを用いて行われ、前者の予測値を主要系列とし、後者の予測値と両モデルの予測平均値を参考系列としている

出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

CQM予測が外れた理由

超短期予測と実績 2024年4-6月期

前期比：%

	予測	1次速報	コンセンサス
国内総生産/国内総支出	0.3	0.8	0.56
前期比年率	1.4	3.1	2.26
民間最終消費支出	-0.0	1.0	0.55
民間住宅	-0.1	1.6	
民間企業設備	1.9	0.9	0.73
民間在庫変動(*)	0.1	-0.1	
政府最終消費支出	0.2	0.1	
公的固定資本形成	5.6	4.5	
公的在庫変動(*)	0.0	0.0	
純輸出(*)	-0.2	-0.1	
財貨・サービスの輸出	1.3	1.4	2.84
財貨・サービスの輸入	2.6	1.7	2.29
GDPデフレーター	1.0	1.0	
国内需要	0.6	0.8	
民間需要	0.5	0.8	

*印は寄与度

- CQMでは消費関連月次指標(需要側：総消費動向指数)を用いて、民間最終消費支出をブリッジ方程式で予測
- GDP推計マニュアルによれば、家計最終消費支出は共通推計部分に加え需要側と供給側推計値の加重平均の合計
- 4-6月期の需要側(総消費動向指数)は前期比-0.2%と5四半期連続のマイナス、供給側(消費活動指数)は同+0.8%と3四半期ぶりのプラス：両指標の乖離
- 総消費動向指数と消費活動指数の統合指数は同+0.6%のプラス成長となった
- CQMが民間最終消費支出を過少に予測した理由は、需要サイドを重視しすぎた手法による

出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

回復過程：4-6月期は再びコロナ禍前ピークを上回る

(単位：2019年7-9月期=100)

	国内総生産	財貨輸入	サービス 輸入	民間最終消費 支出	民間資本 形成	政府支出	財貨輸出	サービス 輸出	名目国内総 生産
19Q3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
19Q4	97.2	98.3	96.0	96.6	94.8	100.2	97.6	100.2	98.0
20Q1	97.7	94.0	94.7	97.4	95.2	100.2	95.9	88.8	98.7
20Q2	90.2	94.9	89.1	89.4	91.5	101.6	78.2	76.7	91.6
20Q3	95.1	87.2	84.6	94.2	88.3	103.2	88.8	73.1	96.2
20Q4	96.8	93.7	84.5	96.0	89.4	103.8	97.8	74.5	97.8
21Q1	97.1	96.3	85.2	94.6	93.5	103.6	101.4	79.0	98.2
21Q2	97.6	99.5	94.2	94.9	95.1	104.6	104.8	80.0	98.7
21Q3	97.2	98.3	90.9	93.8	94.8	105.3	103.6	80.7	98.2
21Q4	98.4	98.2	91.1	96.7	95.0	104.1	103.2	79.9	99.2
22Q1	98.0	103.1	93.3	95.6	97.2	103.8	107.5	78.9	99.2
22Q2	99.0	104.9	93.1	97.4	97.0	103.8	108.1	84.9	100.0
22Q3	98.7	106.5	110.8	97.5	98.8	103.8	108.9	89.3	99.6
22Q4	99.1	106.9	105.4	97.7	97.5	104.7	108.5	95.2	101.5
23Q1	100.4	103.7	109.6	98.5	101.1	105.2	104.1	100.9	103.9
23Q2	101.0	98.9	107.8	97.7	99.3	104.2	106.6	107.1	106.0
23Q3	100.0	98.6	115.2	97.4	96.7	104.4	106.2	108.9	105.9
23Q4	100.0	102.0	112.0	97.1	97.7	103.9	105.9	124.9	106.6
24Q1	99.5	97.8	115.6	96.6	98.3	104.0	102.1	115.1	106.4
24Q2	100.2	99.3	118.4	97.5	98.7	104.9	102.8	119.9	108.3

- 2023年1-3月期実質GDPはコロナ禍前ピークを回復(+0.4%)。4-6月期も回復、その後2四半期連続で停滞したため、24年1-3月期に再びピークを下回った。4-6月期は2四半期ぶりに回復(+0.2%)
- 一方、名目GDPは7四半期連続でコロナ禍前のピークを上回った
- 足下、民間最終消費支出(-2.5%)、民間資本形成(-1.3%)の回復は依然遅れているが、サービス輸出(+19.9%)は6四半期連続、サービス輸入(18.4%)は8四半期連続でコロナ禍前のピークを上回る

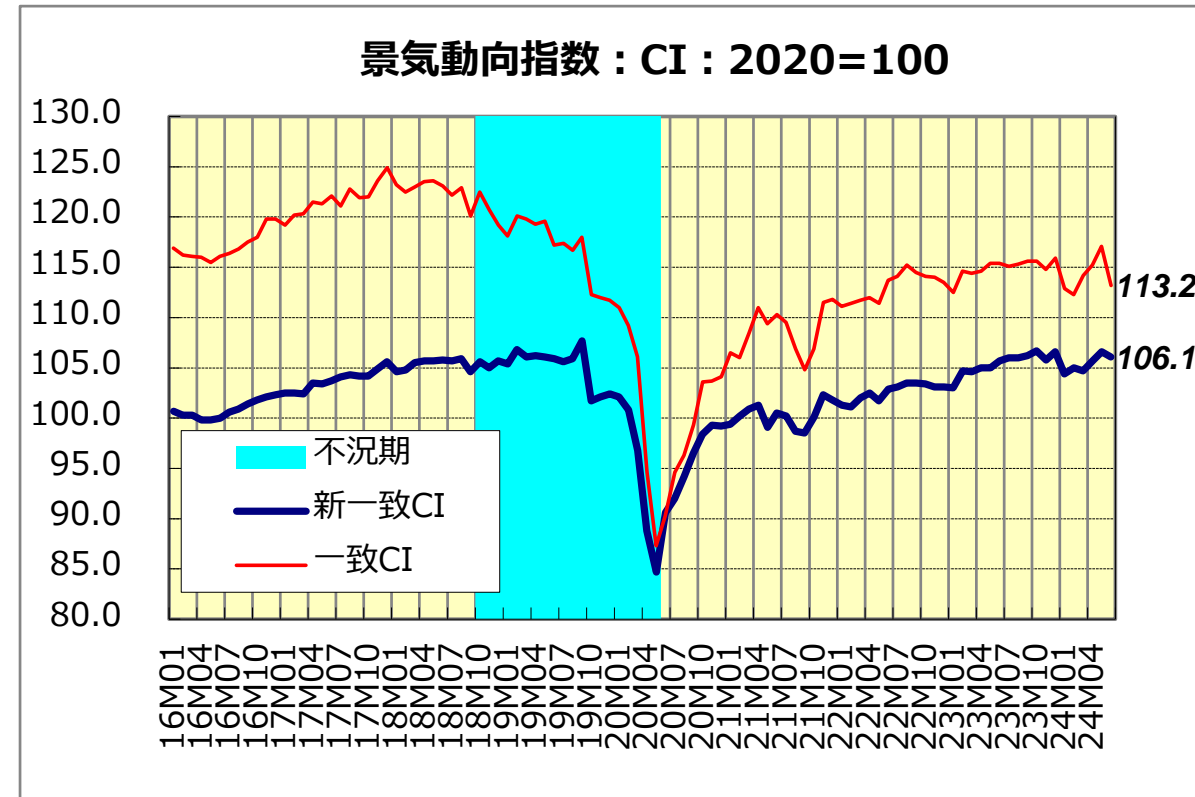
出所：内閣府『国民経済計算』よりAPIR作成

景気の基調判断は「下げ止まりを示している」

- 6月の**一致指数**(確報:113.2)は前月差-3.9ポイントと3カ月ぶりの下降。**4-6月平均は1-3月平均から+2.0ポイント大幅上昇し、2四半期ぶりのプラス**(1-3月期：前期差-2.3ポイント)
- サービス活動を考慮した6月の**新一致指数**(106.1)は前月差-0.5ポイントと3カ月ぶりの下降。**4-6月平均は1-3月平均差+1.4ポイント上昇した**(1-3月期：前期差-1.7ポイント)
- 内閣府は**6月の基調判断**：2カ月連続で「**下げ止まりを示している**」

【CI一致指数の動向】

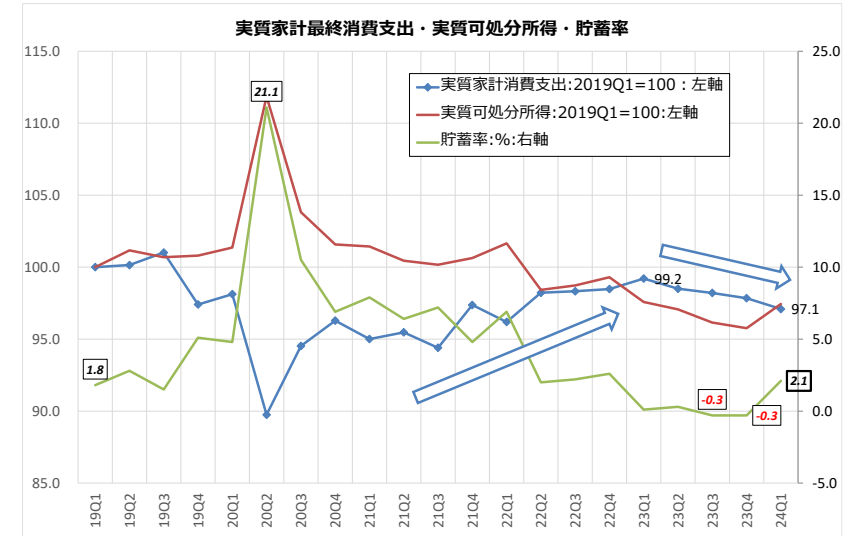
(2020=100)



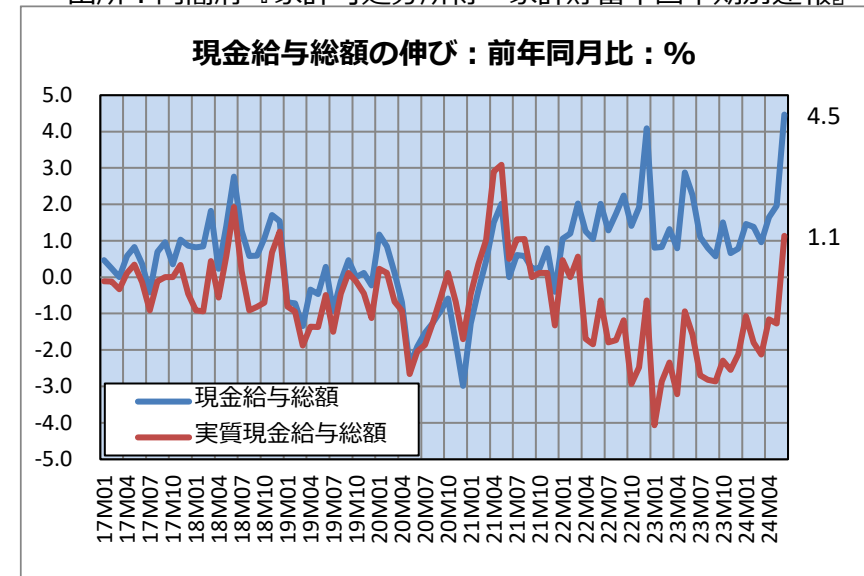
出所：内閣府『景気動向指数』より作成

家計貯蓄率は3四半期ぶりのプラス：24年1-3月期

- 貯蓄率の低下が実質民間消費支出を支えてきたが、**23年7-9月期、10-12月期に2四半期連続のマイナス**
- **24年1-3月期の実質可処分所得は前期から拡大するが、貯蓄率がプラス反転した結果、民間消費は引き続き低下**
- **6月の実質現金給与総額(確報)は同+1.1%と27カ月ぶりに増加に転じた。**
「特別に支払われた給与」の高い伸びが寄与。7月以降はこの影響が剥落するが、先行きにとって**所定内給与の伸びと消費者物価指数インフレ率の動向が重要**



出所：内閣府『家計可処分所得・家計貯蓄率四半期別速報』



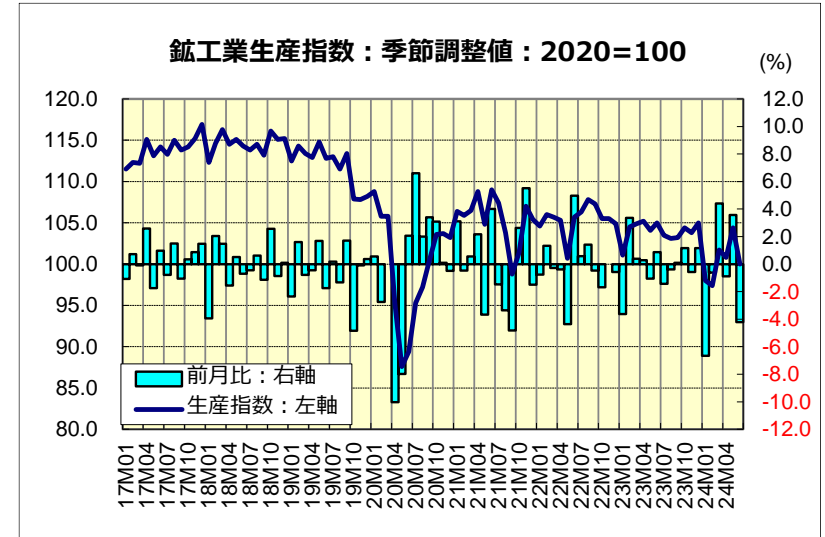
出所：厚生労働省『毎月勤労統計』

4-6月期鉱工業生産「一進一退ながら弱含み」、サービス活動「一進一退」

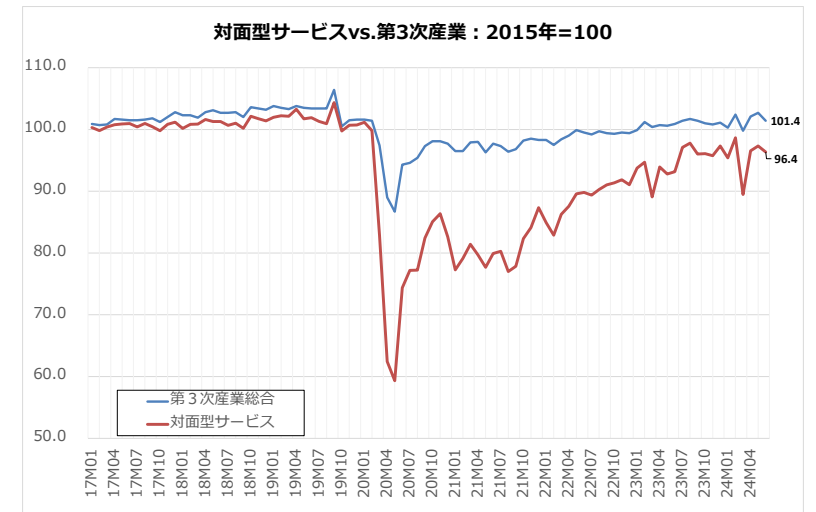
■ 6月の**鉱工業生産指数**(確報)は前月比-4.2%と2カ月ぶりの低下。結果、**4-6月期**は前期比+2.7%上昇。**2四半期ぶりのプラスだが、前期の落ち込み(-5.1%)を回復できていない。**生産の基調判断を「**一進一退ながら弱含み**」と前月から据置

■ 6月の**第3次産業活動指数**は前月比-1.3%と3カ月ぶりの低下。結果、**4-6月期**は前期比+1.3%(前期：同-0.1%)と**3四半期ぶりの上昇**。基調判断を「**一進一退**」と前月から据置

■ 6月の**対面型サービス業指数**は前月比-1.0%と3カ月ぶりのマイナス。**4-6月期**は前期比+2.4%(前期：同-2.0%)と**3四半期ぶりのプラス**

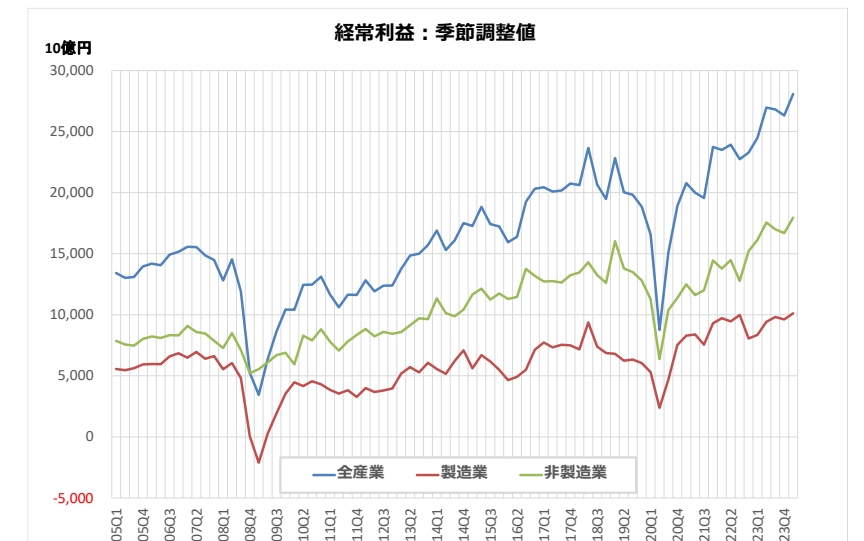
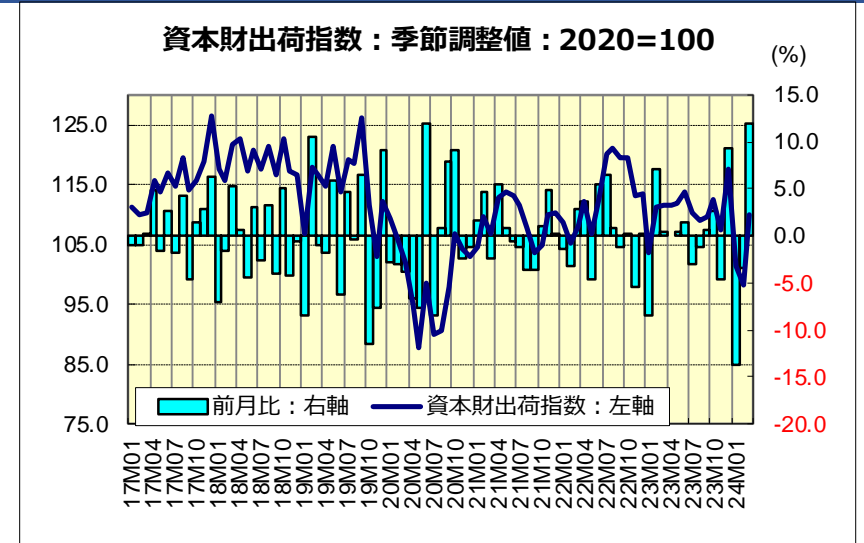


出所：経済産業省『鉱工業指数』



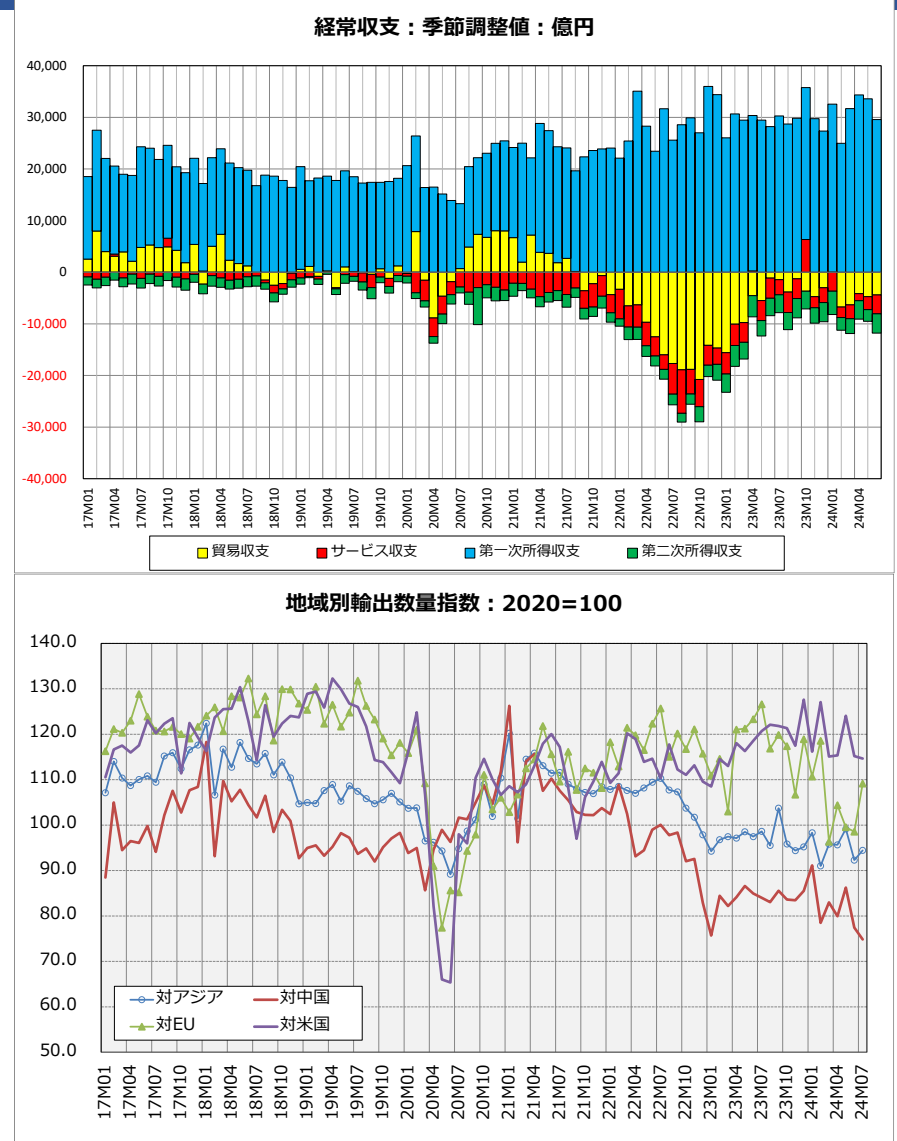
出所：経済産業省『第3次産業活動指数』よりAPIR作成

- 6月の**資本財出荷指数**(確報)は前月比-11.7%と4カ月ぶりの低下。**4-6月期は前期比+6.1%**と2四半期ぶりに上昇した(1-3月期：同-8.4%)
- **2024年1-3月期法人企業統計調査**によれば、全産業ベース**経常利益**(季節調整値)は、前期比-6.7%と3四半期ぶりの**増益**。**製造業同+5.1%**と2四半期ぶりの**増加**。**非製造業同+7.6%**と3四半期ぶりの**増加**
- **企業収益は過去最高益を更新**。人手不足対応やDX向けの投資を中心に**拡大のポテンシャルは強い**



4-6月期の経常収支は2四半期ぶりに改善

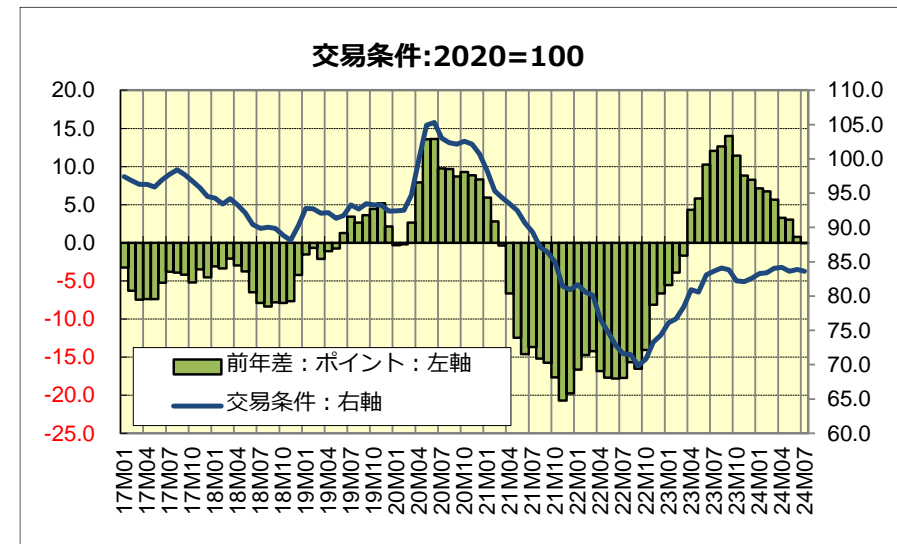
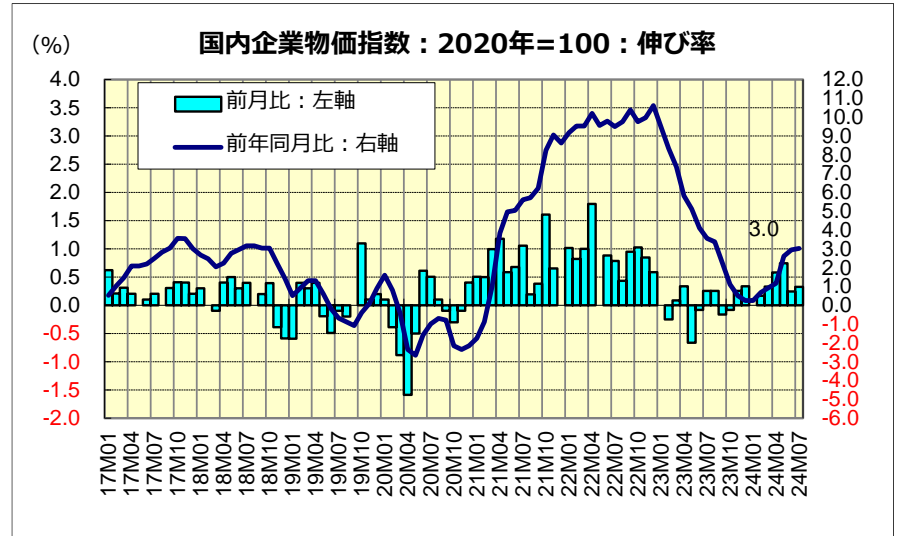
- **4-6月期の経常収支(季節調整値)**は前期比+15.8%と**2四半期ぶりに改善**(1-3月期：同-12.7%)
- **4-6月期の貿易赤字(季節調整値)**は同+2.4%と**3四半期連続で拡大**(1-3月期：同+13.6%)
- **4-6月期のサービス収支赤字(季節調整値)**は同-10.2%**縮小**(1-3月期：前期差-3,250億円)
- **4-6月期の第一次所得収支黒字(季節調整値)**は同+9.3%と**2四半期連続で拡大**(1-3月期：同+3.1%)。
- **7月の地域別輸出を4-6月平均(数量ベース)と比較**すれば、対アジアは-1.3%、対中は-7.8%、対米は-3.0%、対EU+8.2%となった。**輸出は対アジア、対中、対米で減少している**



出所：財務省『国際収支状況』『貿易統計』

国内企業物価：インフレ再加速、悪化する交易条件

- **7月の国内企業物価指数**は前月比+0.3%と6カ月連続のプラス。前年同月比+3.0%と41カ月連続のプラス。6カ月連続で前年比伸びが加速し、昨年8月(同+3.4%)以来の高さ
- ドル相場は158.06円、前月比+0.2%と7カ月連続、前年同月比+11.9%と41カ月連続の円安
- **7月の円ベース輸出物価指数**は前年同月比+10.8%と12カ月連続の上昇。一方、**円ベース輸入物価指数**は同+10.8%と6カ月連続の上昇
- このため、**7月の交易条件指数**(輸出物価指数/輸入物価指数*100)は前月差-0.3ポイントと2カ月ぶりの低下(悪化)となった。**前年同月差-0.0ポイント低下し、16カ月ぶりの悪化**



出所：日本銀行『国内企業物価指数』

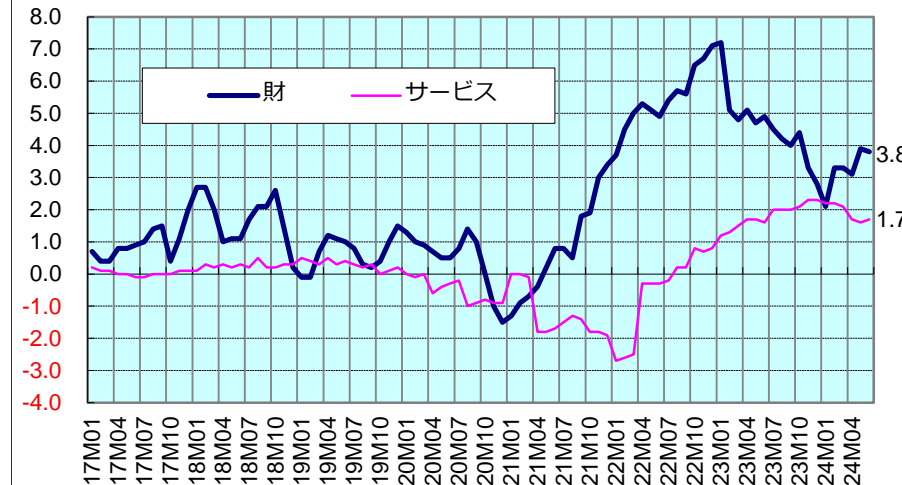
夏場にかけてエネルギーは消費者物価を押し上げ

- 6月の**全国消費者物価コア指数**(除く生鮮食品)は前年同月比+2.6%と34カ月連続の上昇。結果、**4-6月期**は前年同期比+2.5%と**11四半期連続のプラス**
- **エネルギー**は前年同月比+7.7%と**3カ月連続の上昇**。6月には激変緩和措置が延長されないため、7月に**エネルギーは急上昇**。**9-11月**には「酷暑乗り切り支援策」で**上昇率は鈍化、年末には再び上昇**
- 財・サービス分類で見れば、**財**は前年同月比+3.8%と38カ月連続の上昇。食料価格の上昇率が縮小したため、**財価格の上昇率は前月から縮小**。**サービス**は同+1.7%と23カ月連続の上昇だが、**上昇率は横ばい**

全国消費者物価指数：2020=100：前年同月比：%



項目別全国消費者物価指数：前年同月比：%



出所：総務省『全国消費者物価指数』

海外環境：外生変数の想定比較

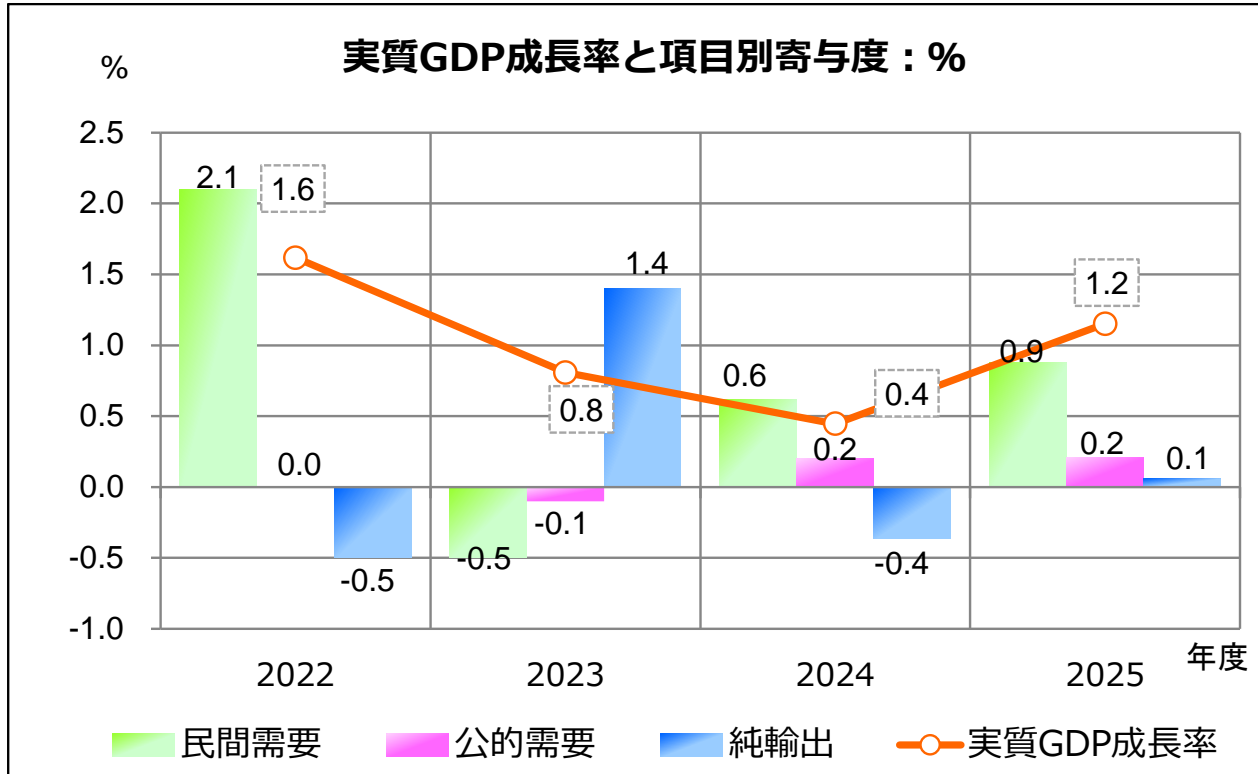
外生変数	23年度	24年度	25年度
原油価格(\$/bbl)	80.7	81.9	78.1
前回	80.7	82.8	77.6
世界貿易量(%)	0.8	3.1	3.4
前回	0.3	3.0	3.3
為替レート(¥/\$)	144.5	149.2	138.8
前回	144.5	155.8	146.9

【海外外生変数の想定】

- (1)原油価格は、前回予測より24年度下方、25年度上方修正
- (2)世界貿易(World Trade Volume, WEO)は24-25年緩やかに回復、前回予測から24-25年下方修正
- (3)為替レートは、24-25年にかけて円高傾向、前回予測から6-8円程度の円高

出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

実質GDP成長率の予測と項目別寄与度



注：四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。
出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

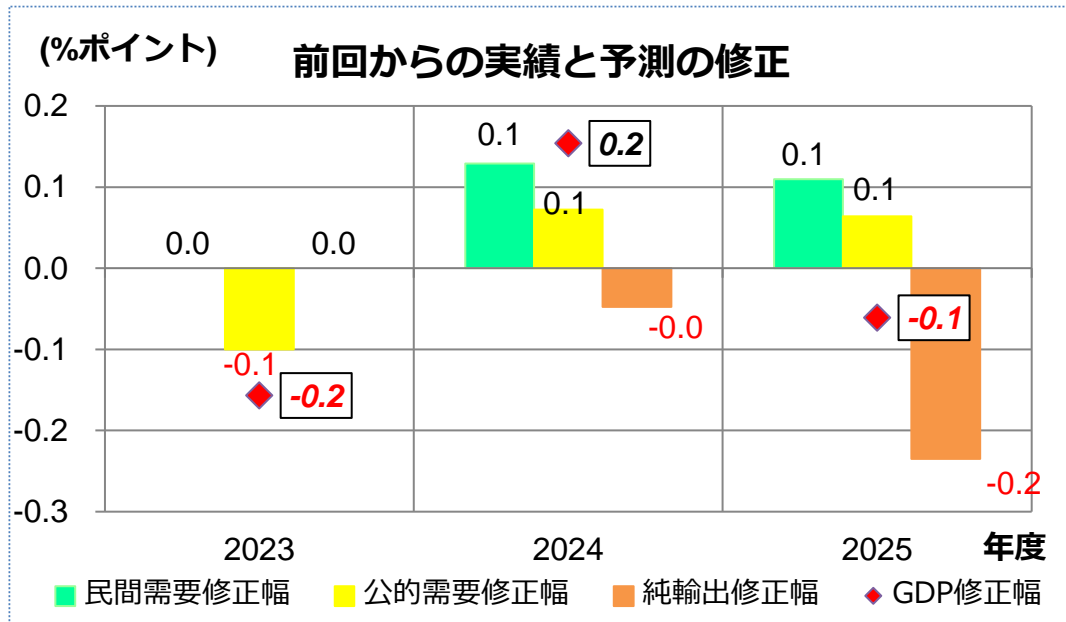
【実質GDP成長率予測：24年度
+0.4%、25年度+1.2%】

- 項目別寄与度
- 24年度(実質GDP成長率+0.4%)
は民間需要+0.6%ポイント、公的需要+0.2%ポイント、純輸出-0.4%ポイント
- 25年度(実質GDP成長率+1.2%)
は民間需要+0.9%ポイント、公的需要+0.2%ポイント、純輸出+0.1%ポイント

23-25年度実績及び予測修正

	2023年度	2024年度	2025年度
GDP成長率	-0.2%pt	+0.2%pt	-0.1%pt
民間需要	0.0%pt	+0.1%pt	+0.1%pt
公的需要	-0.1%pt	+0.1%pt	+0.1%pt
純輸出	0.0%pt	-0.0%pt	-0.2%pt

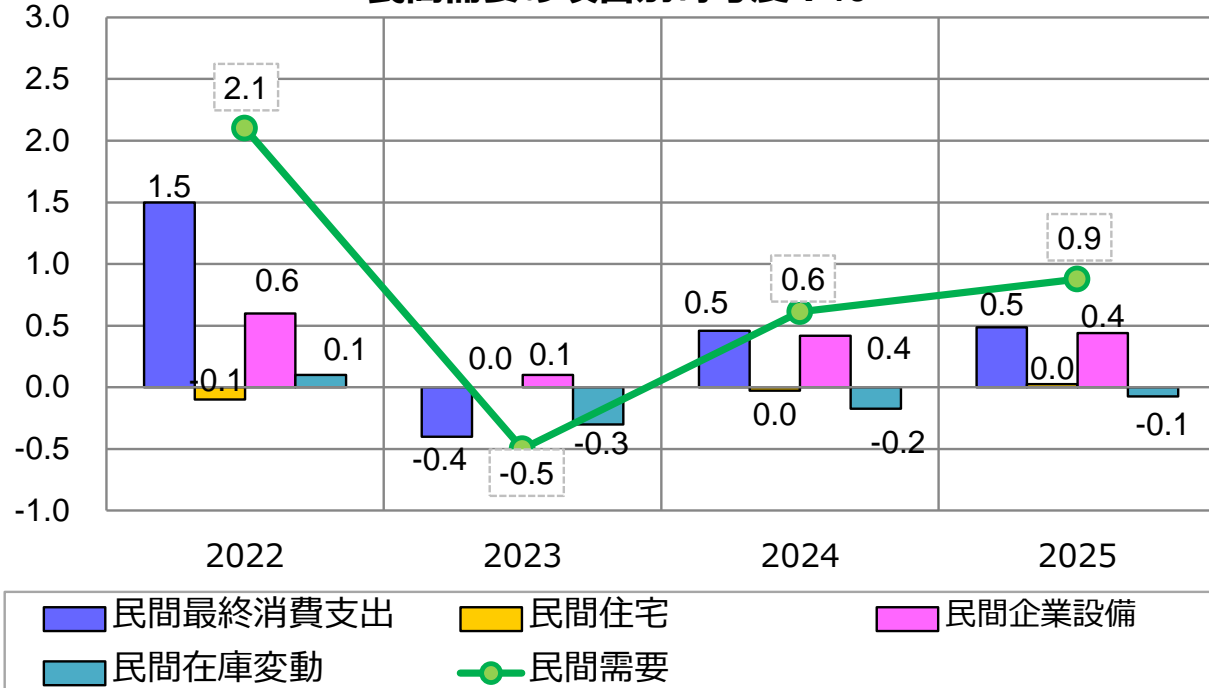
- 前回予測(7月2日公表)に比べて、
 - **23年度**：-0.2%ポイント下方修正(政府最終消費支出の下方修正)
 - **24年度**：+0.2%ポイント上方修正
 - **25年度**：-0.1%ポイント下方修正
- 24年度は**民間需要**(+0.1%ポイント)、**公的需要**(+0.2%ポイント)を**上方修正**、**純輸出**(-0.0%ポイント)を**下方修正**
- 25年度は**民間需要**(+0.1%ポイント)、**公的需要**(+0.1%ポイント)を**上方修正**、**純輸出**(-0.2%ポイント)を**下方修正**



注：四捨五入の関係で、需要構成項目の修正幅を合計してもGDPの修正幅とは必ずしも合致しない。出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

民間需要項目別寄与度

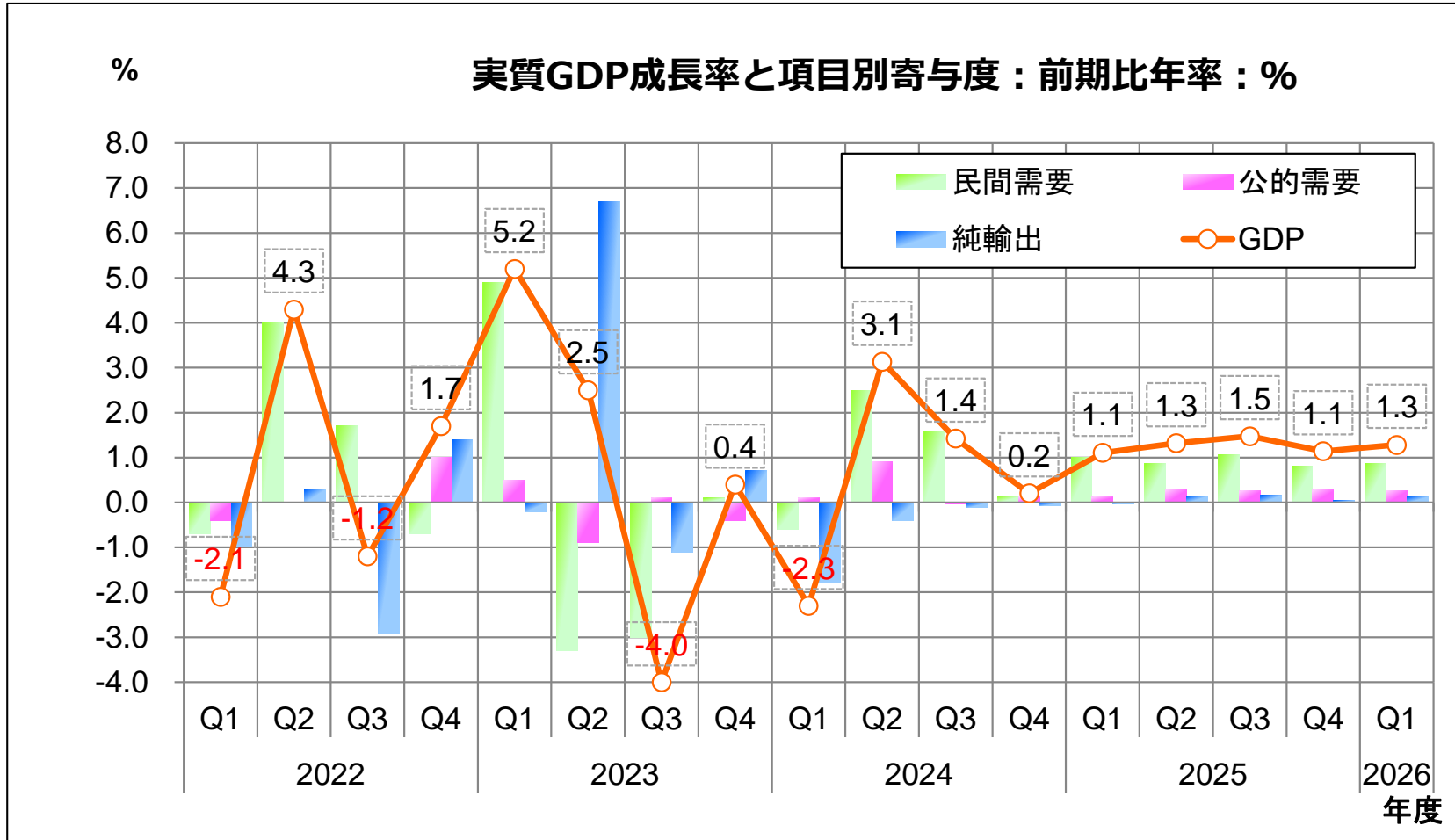
民間需要の項目別寄与度：%



- 民間需要項目別寄与度
- 24年度:民間最終消費支出+0.5%ポイント、民間住宅-0.0%ポイント、民間企業設備+0.4%ポイント、民間在庫変動-0.2%ポイント
- 25年度:民間最終消費支出+0.5%ポイント、民間住宅+0.0%ポイント、民間企業設備+0.4%ポイント、民間在庫変動-0.1%ポイント

注：四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。
出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

実質GDPを四半期ベースで見れば：実績と予測

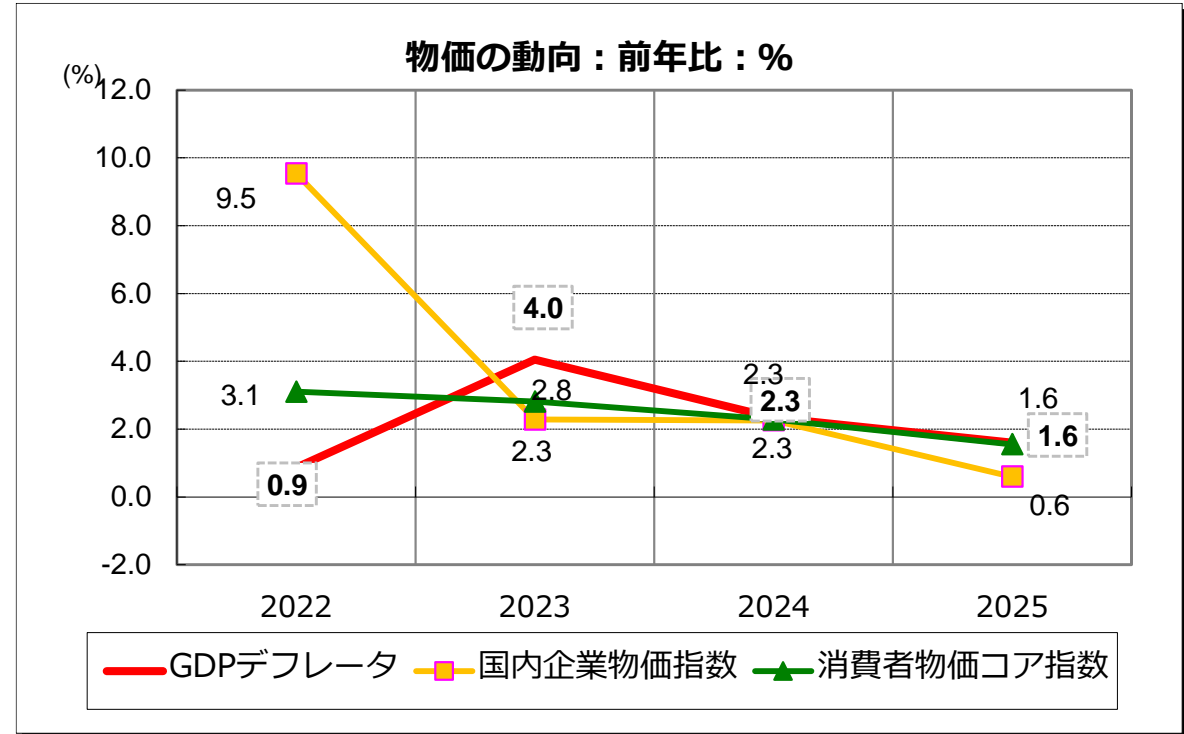


- 6月の実質現金給与総額は前年同月比+1.1%と27カ月ぶりに増加に転じた。「特別に支払われた給与」の高い伸びがプラス転換に寄与した
- 7月以降はこの影響が剥落するが、**所定内給与の高い伸びの実現と消費者物価指数インフレ率の高止まりから減速により、7-9月期以降実質賃金のプラス反転が続こう**
- 加えて、同期には**定額減税の効果**が表れ**可処分所得の増加も期待できるため、引き続き民間消費は伸び、以降緩やかに持ち直そう**

出所：APIR『第149回 景気分析と予測』

インフレーションの動態

- 消費者物価インフレ率は、**24年度前半の高止まりから後半にかけて減速する**。結果、**消費者物価コア指数のインフレ率を、24年度+2.3%、25年度+1.6%と予測**。前回予測から-0.1%ポイント下方修正
- 23年度の交易条件改善の裏が出るため、**GDPデフレーターは24年度+2.3%、25年度+1.6%となる**



出所：APIR 『第149回 景気分析と予測』

関西経済の現況と予測

Kansai Economic Insight
Quarterly
No.70

マクロ経済分析プロジェクト Contributors

稲田義久・入江啓彰

野村亮輔・郭秋薇・劉子瑩・吉田茂一

古山健大・宮本瑛・新田洋介・壁谷紗代



【QRコードより
本予測説明動画が8/29から
視聴可能予定】

関西経済の現況：要旨

内需の下支えにより緩やかに持ち直している
リスクの多様化に伴う先行き不透明感の強まりに注意

- **【概況】** 関西経済は、一部に弱い動きも見られるが、内需の下支えにより緩やかに持ち直している。家計部門では、消費者センチメント、所得、雇用など力強い回復には至らないものの、持ち直しつつある。企業部門では、生産は一進一退であるが、景況感や設備投資計画は堅調である。対外部門では、財輸出は持ち直しており、インバウンド需要は顕著な回復傾向が続いている
- **【家計部門】** 一部に弱い動きも見られるが、緩やかに持ち直しつつある。大型小売店販売、センチメントなどで緩やかな持ち直しの動きとなっている。雇用環境は求人控える動きから、弱い動きとなっている。実質賃金は依然として前年比マイナスが続いているが、底打ちの兆しが見られる。住宅市場は持ち直しつつある

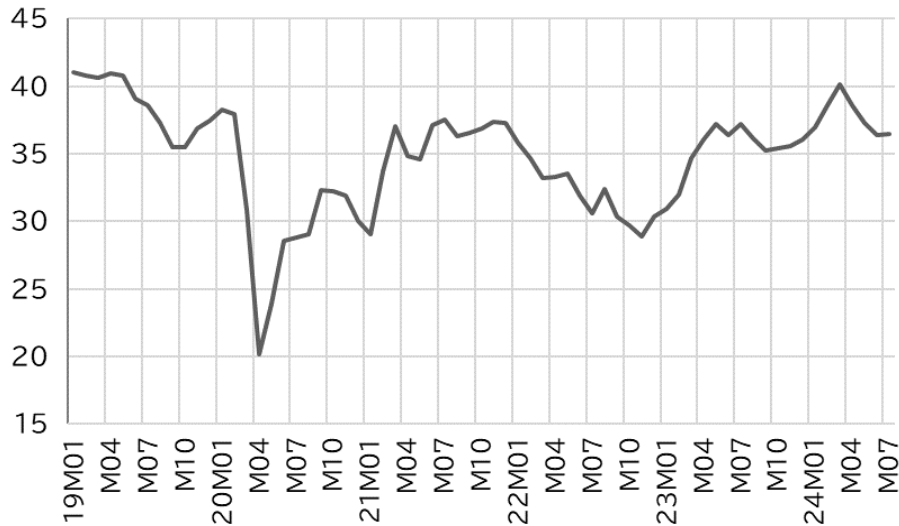
関西経済の現況：要旨

(続き)

- **【企業部門】 足踏みの状況が続いている**。生産は自動車の認証不正問題に伴う生産停止・再開が影響し、一進一退の動きとなっている。設備投資は、製造業・非製造業ともに24年度は大幅増が計画されている。景況感は、非製造業は堅調であるが、製造業はやや弱い動きとなっている
- **【対外部門】 財貿易は輸出・輸入ともに持ち直している**。輸出は欧米向けは低調であるが、中国向けの持ち直しを背景に2四半期連続の前年比プラス。**インバウンド需要は順調に回復**しており、関空経由の外国人入国者数、免税売上高など増加傾向が続いている
- **【公的部門】 公共工事は持ち直している**。請負金額、出来高とも前年比プラスに転じた
- **【先行き】 リスクの多様化により先行きに対する不透明感が増している**。海外要因としては、欧米経済・中国経済の先行き不透明感の強まりがある。国内要因としては、賃金と物価の動向のほか、株価・為替の乱高下、自然災害リスクの増大、政局の不確実性などが挙げられる

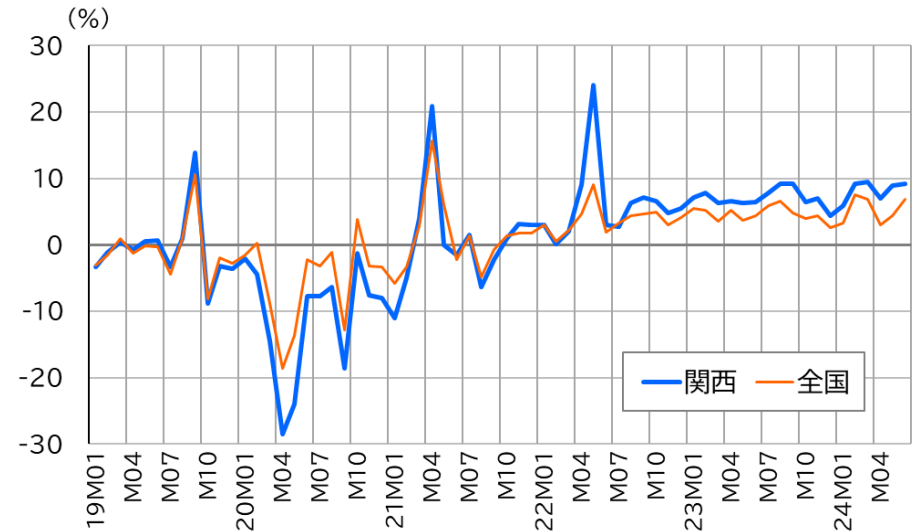
消費者センチメント・大型小売店販売

- **24年4-6月期関西の消費者態度指数**は37.4で、前期比-1.1ポイント、**2四半期ぶりの悪化**。月次ベースでは4月から3カ月連続で悪化、足下7月は+0.1ポイントで4カ月ぶりに上昇した。物価の高止まりから消費者心理が抑制され足踏みしている。6月に実施された定額減税の効果は限定的
- **4-6月期関西の大型小売店販売額**は1兆190億円となった。前年同期比は+8.4%で、**11四半期連続で前年を上回った**。全国(同+4.8%)を上回る伸びが続いている。うち百貨店は同+20.0%で11四半期連続のプラス、スーパーは同+1.1%で7四半期連続のプラス。値上げの影響が続いている



消費者態度指数(センチメント)

出所：内閣府『消費動向調査』、季節調整はAPIRによる。

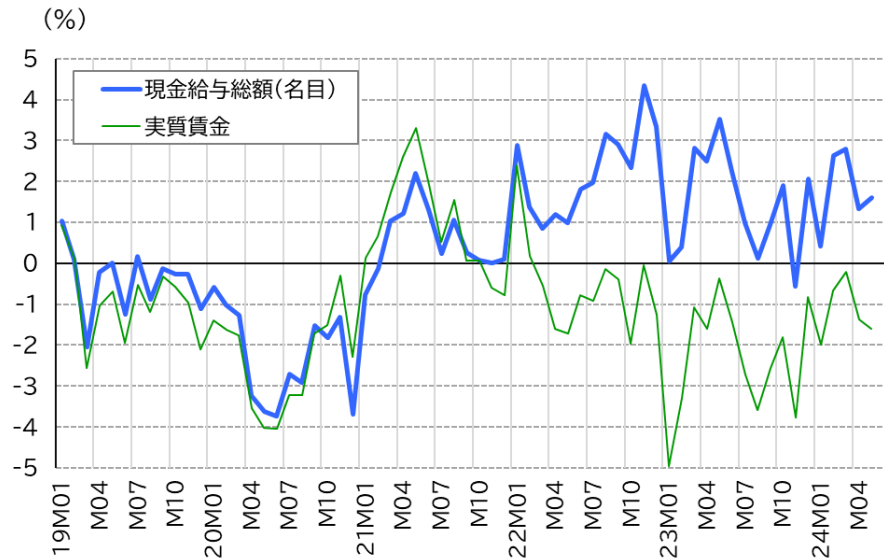


大型小売店等販売状況(前年同月比)

出所：近畿経済産業局『百貨店・スーパー販売状況』

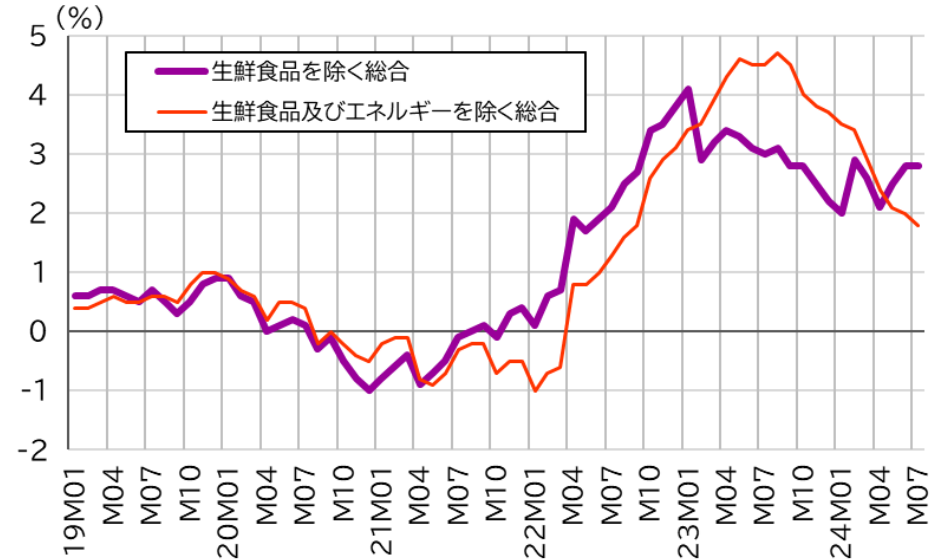
所得・物価

- **関西の現金給与総額**(24年5月)は、前年同月比+1.6%で6カ月連続で前年を上回った。物価変動の影響を除いた**実質賃金**は、同-1.6%と**27カ月連続のマイナス**。なお**全国の実質賃金**は6月に同+1.1%と**27カ月ぶりにプラスに転じた**
- **24年4-6月期関西の消費者物価指数**(コア、2020年平均=100)は107.1で、前年同期比+2.5%と**11四半期連続で上昇**した。内訳をみると、食料品価格の上昇は落ち着いてきたものの、政府による電気・ガス料金の負担軽減策が5月に一旦終了したことで、エネルギー価格が上昇に転じた



現金給与総額と実質賃金

出所：厚生労働省「毎月勤労統計調査」を加工

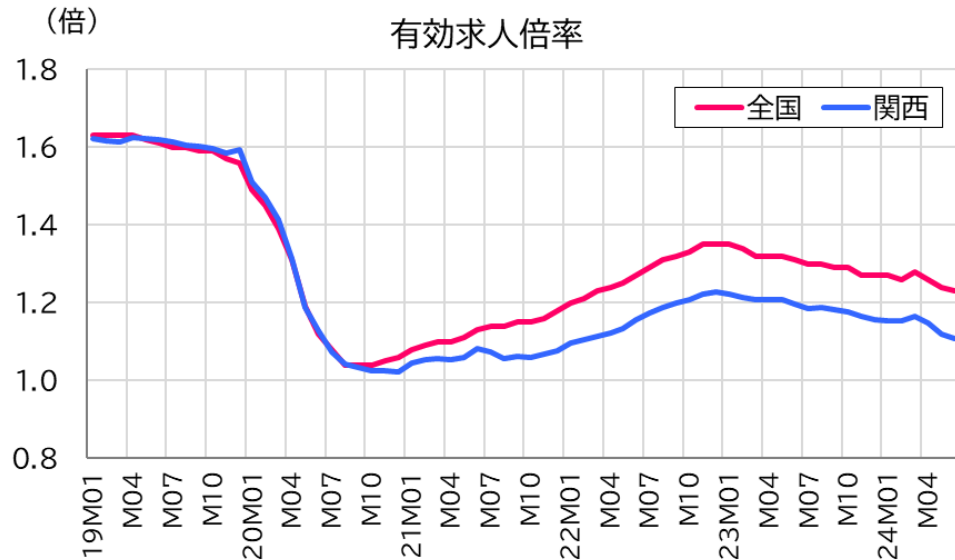


関西消費者物価総合指数 (前年同月比)

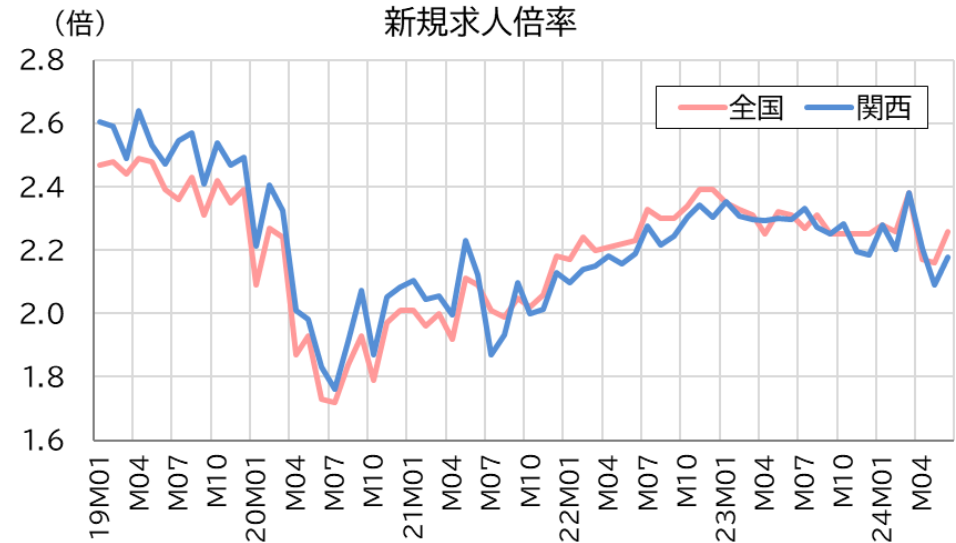
出所：総務省統計局「消費者物価指数」

雇用

- **24年4-6月期関西の有効求人倍率(季節調整値)**は1.12倍で、前期比-0.04ポイント悪化した。**悪化は6四半期連続**。月次ベースで見ると、4月から3カ月連続で悪化している。また**新規求人倍率(季節調整値)**は2.16倍で、前期比-0.13ポイントとなり**2四半期ぶりに悪化した**
- 全国の4-6月期の有効求人倍率は1.25倍、新規求人倍率は2.20倍だった。関西と同様に悪化傾向が続いている。**有効求人倍率については依然として関西と全国で開きがある**



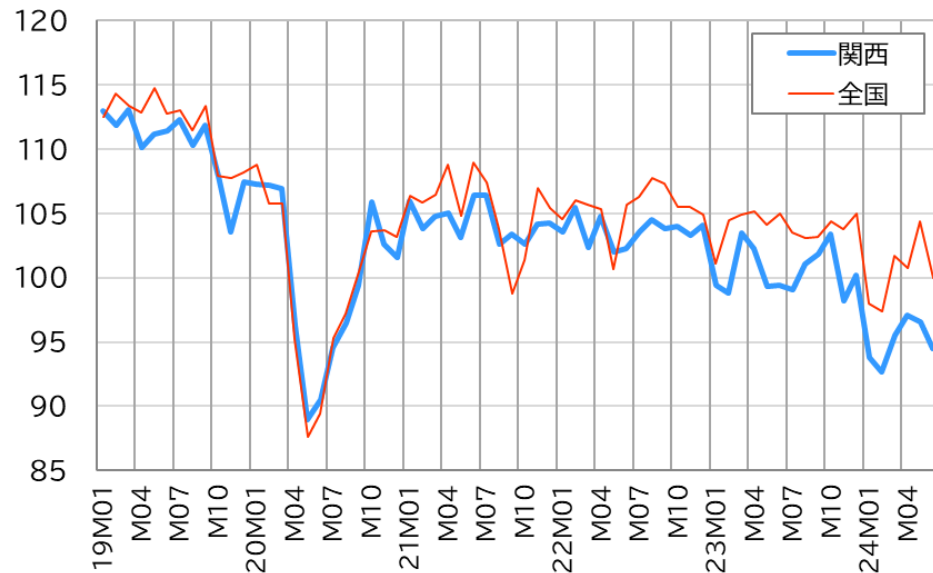
出所：厚生労働省『一般職業紹介状況』



出所：厚生労働省『一般職業紹介状況』

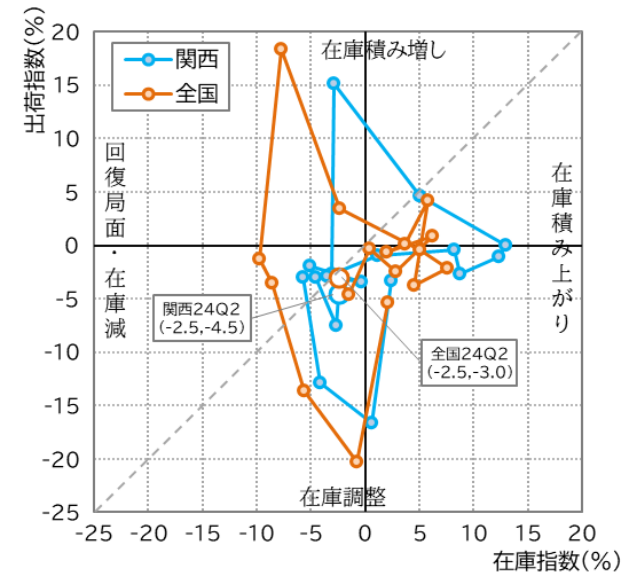
生産・在庫

- **24年4-6月期関西の生産指数**(季調値、2020年=100)は96.1で、前期比+2.2%と**3四半期ぶりの増産**となった。業種別では、自動車工業の増産(同+37.7%)が生産全体を押し上げた。**月次ベースで見ると**、足下6月は前月比-2.2%で2カ月連続の減産。自動車の認証不正問題に伴う生産停止・再開が影響し、**一進一退の動き**となっている
- 4-6月期の在庫指数は前年同期比-2.5%、出荷指数は同-4.5%となった。在庫指数は6四半期連続の低下、出荷指数は10四半期連続の低下で、**在庫調整局面が続いている**



鋁工業生産指数

出所：近畿経済産業局「鋁工業生産動向」、経済産業省「鋁工業生産動向」



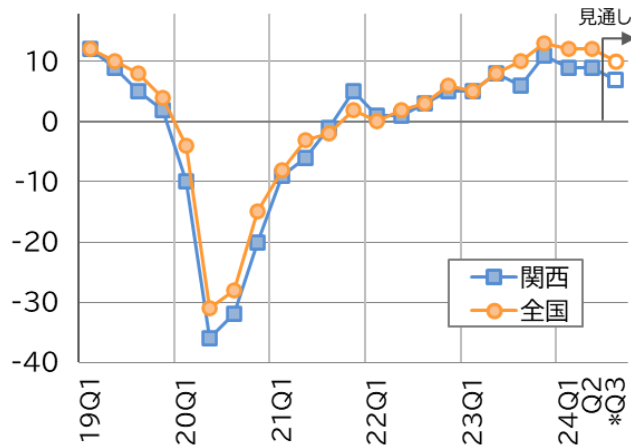
在庫循環図

注：2020年1-3月期から2024年4-6月期まで

短観：業況判断DIと設備投資計画

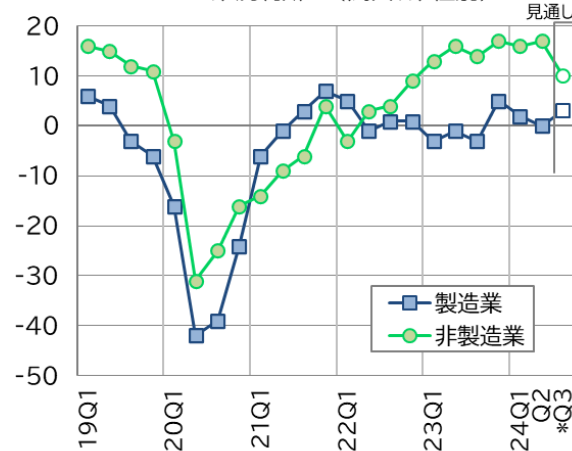
- 24年6月短観における関西企業の業況判断DI(全規模・全産業)はプラス9。前回調査と同水準で、**11四半期連続でプラスを維持した**。業種別では、製造業0(前期比-2ポイント)、非製造業プラス17(同+1ポイント)だった。**非製造業は堅調であるが、製造業は2期連続の悪化となった**
- また同調査によると**関西企業の24年度設備投資計画(全規模・全産業ベース)は前年度比+16.4%**だった。業種別では、**製造業同+24.7%、非製造業+10.2%**とともに高い伸びが見込まれている。日本政策投資銀行の調査でも、**関西地域での24年度設備投資は前年度に続き大幅増となる見通し**

全規模・全産業ベース



業種別

業況判断DI(関西、業種別)



短観：企業業況判断DIの推移

注：*は見通しであることを示す。

出所：日本銀行大阪支店『全国企業短期経済観測調査(近畿地区)』

日銀短観(6月調査)

	関西			全国		
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業
23年度	0.9	6.8	-3.2	10.6	6.7	12.8
24年度	16.4	24.7	10.2	8.4	17.2	3.5

日本政策投資銀行

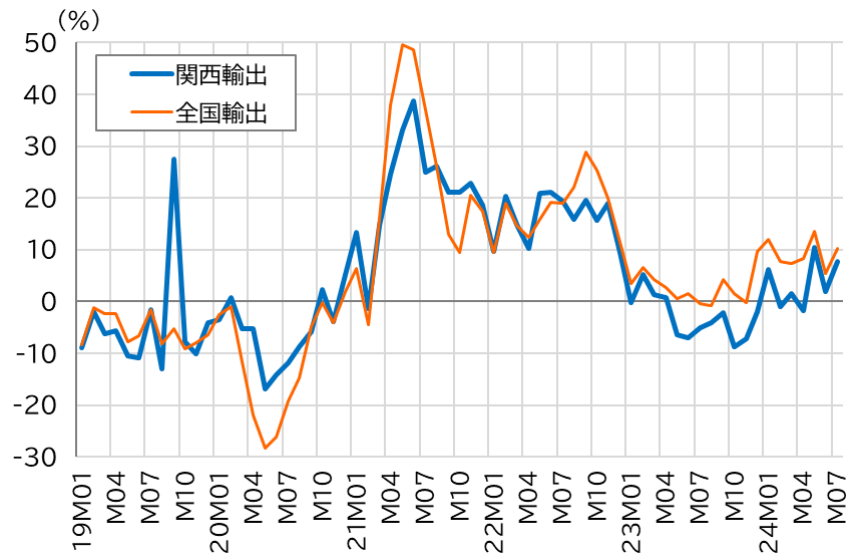
	関西			全国		
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業
23年度	20.1	11.2	24.6	7.4	13.2	4.6
24年度	11.0	19.2	7.5	20.6	23.1	19.2

設備投資計画：前年度比(%)

出所：日本銀行大阪支店『全国企業短期経済観測調査(近畿地区)』、日本政策投資銀行『地域別設備投資計画調査(2024年6月)』

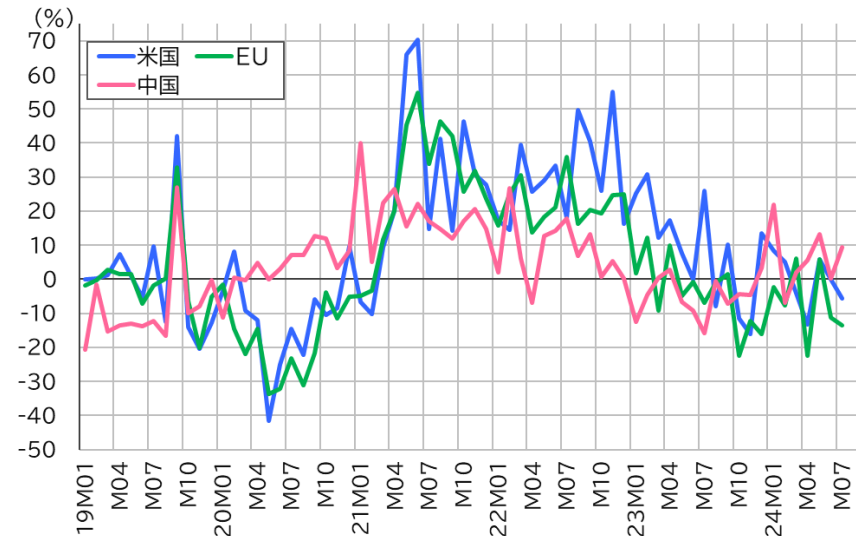
対外部門：財貿易

- **24年4-6月期関西の輸出額**は5.3兆円で、前年同期比+3.2%と**2四半期連続で前年の水準を上回った**。全国は同+8.8%で14四半期連続で前年比プラスだった
- **地域別**では、対米国が前年同期比-3.1%で2四半期ぶりのマイナス、対EUも同-10.4%で4四半期連続のマイナスとなった。一方**対中国**は同+6.1%で**2四半期連続のプラス**となった
- **4-6月期の輸入額**は4.7兆円で、前年同期比+3.7%と**5四半期ぶりにプラスに転じた**。結果、**貿易収支**は+5,864億円で**7四半期連続の黒字**



関西と全国の輸出(前年同月比)

出所：大阪税関『近畿圏貿易概況』

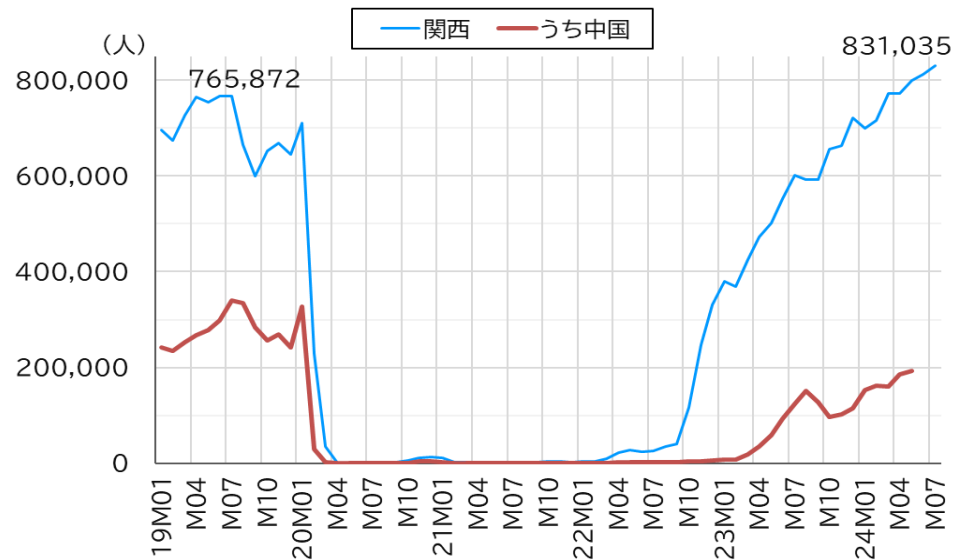


地域別輸出(前年同月比)

出所：大阪税関『近畿圏貿易概況』

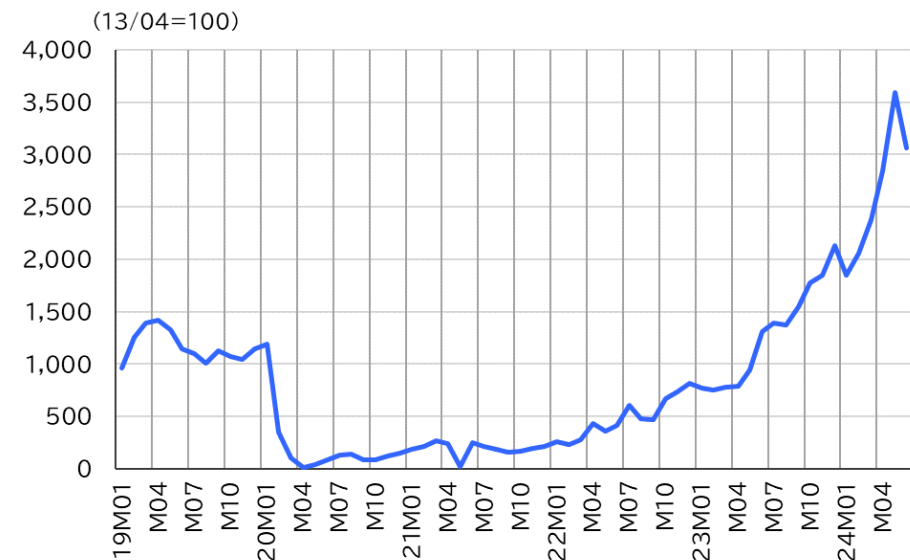
対外部門：サービス貿易

- **24年4-6月期**に関空経由で入国した**外国人客数**は238.4万人だった。**3四半期連続で200万人を超え**。足下7月単月では83.1万人で、5カ月連続で単月過去最多記録を更新している。国籍別では、中国からの旅行客の回復が顕著で、トップの韓国に迫る水準となっている
- **4-6月期関西の百貨店免税売上高**は前年同期比+211.7%となり、**13四半期連続で前年を上回った**。引き続き化粧品や高級ブランド品等の売上が好調である



関空経由訪日外国人客数

出所：法務省『出入国管理統計』

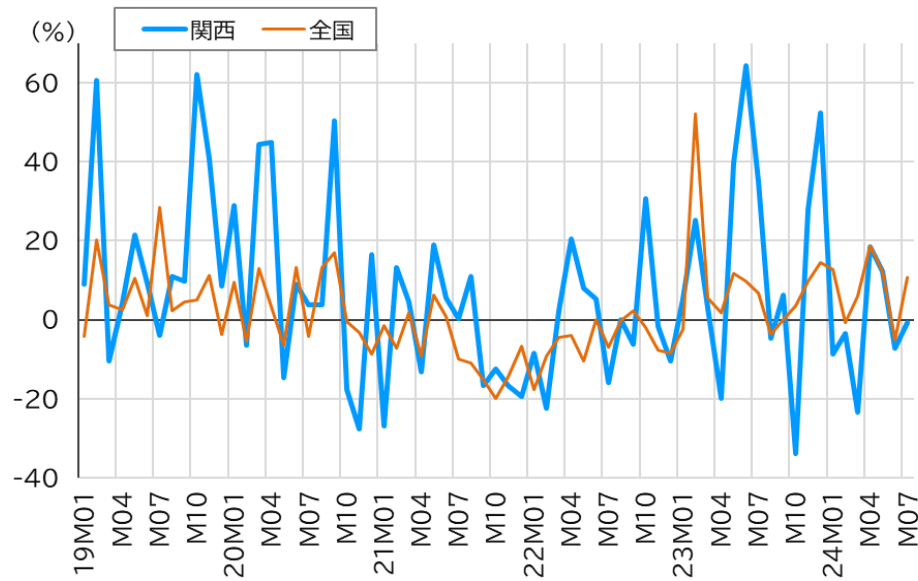


百貨店免税売上

出所：日本銀行大阪支店『百貨店免税売上(関西地域)』

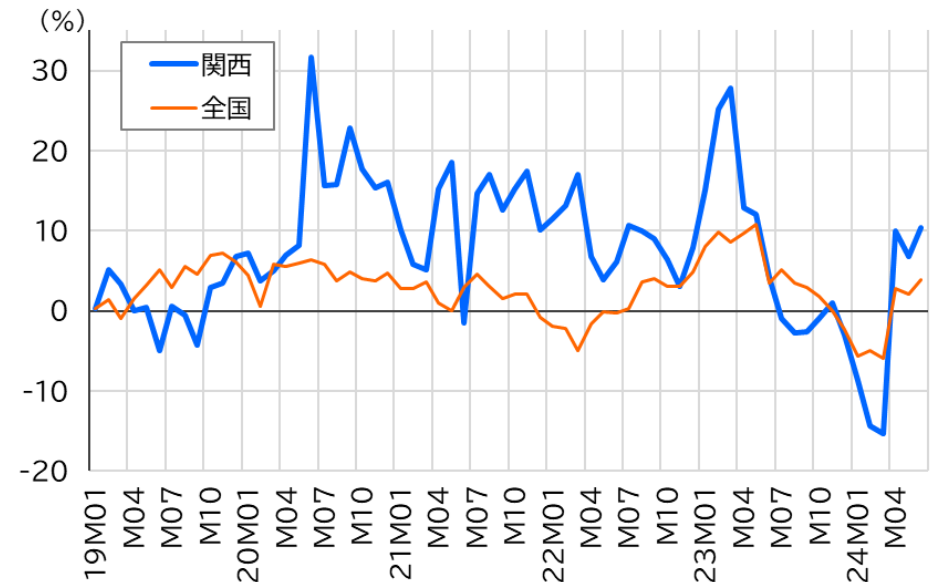
公共工事

- **24年4-6月期関西の公共工事請負金額**は、前年同期比+7.1%で**2四半期ぶりにプラス**となった。全国は同+8.8%で7四半期連続のプラス
- **4-6月期関西の公共工事出来高**も前年同期比+9.0%で**4四半期ぶりのプラス**となった。全国は同+3.0%で3四半期ぶりのプラス。このところ**関西**の伸びは全国を下回って推移していたが、**24年度**に入って持ち直している



公共工事請負金額(前年同月比)

出所：東日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』



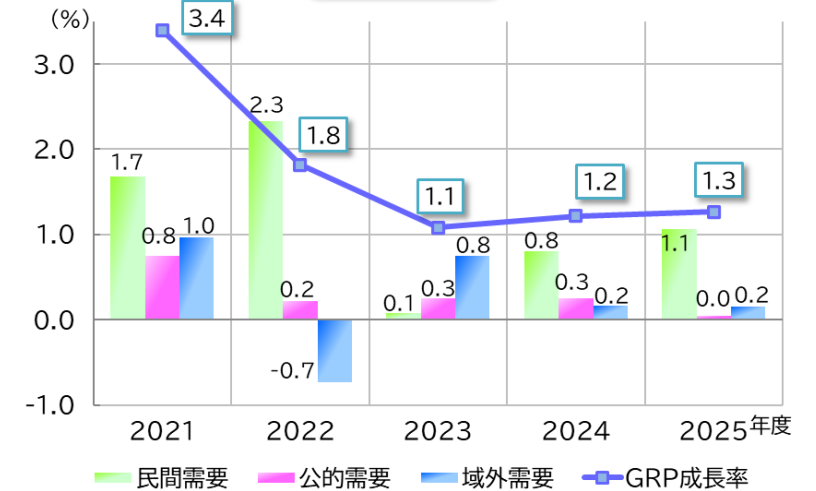
公共工事出来高(前年同月比)

出所：国土交通省「建設総合統計」

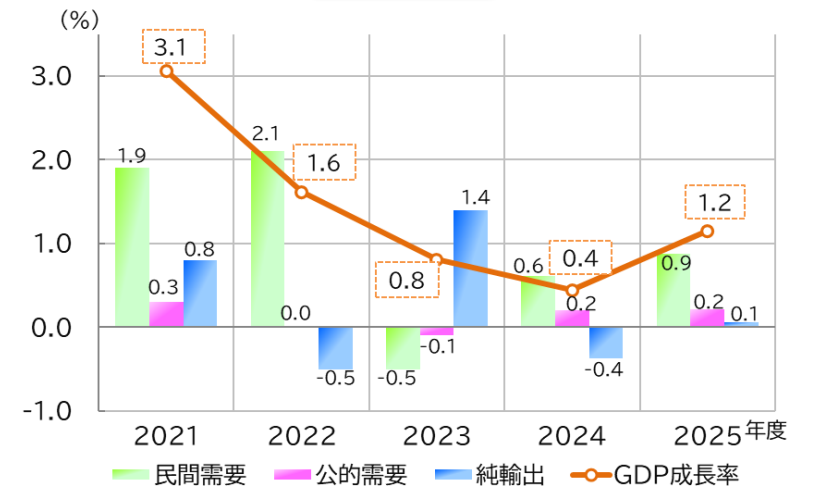
実質GRP成長率の予測結果と項目別寄与度

- 関西の実質GRP成長率を**2024年度+1.2%、25年度+1.3%**と予測。1%台前半の緩やかな伸びが続く。24年度、25年度と日本経済を上回る伸びとなる見通し
- 成長に対する寄与を見ると、**民間需要**は24年度+0.8%ポイント、25年度+1.1%ポイントとなり、成長を牽引する。**公的需要**は万博関連の投資により24年度+0.3%ポイントと成長を下支えるが、25年度にはその効果が剥落し、小幅寄与となる。**域外需要**は24年度+0.2%ポイント、25年度+0.2%ポイントと小幅ではあるが成長を下支える

関西



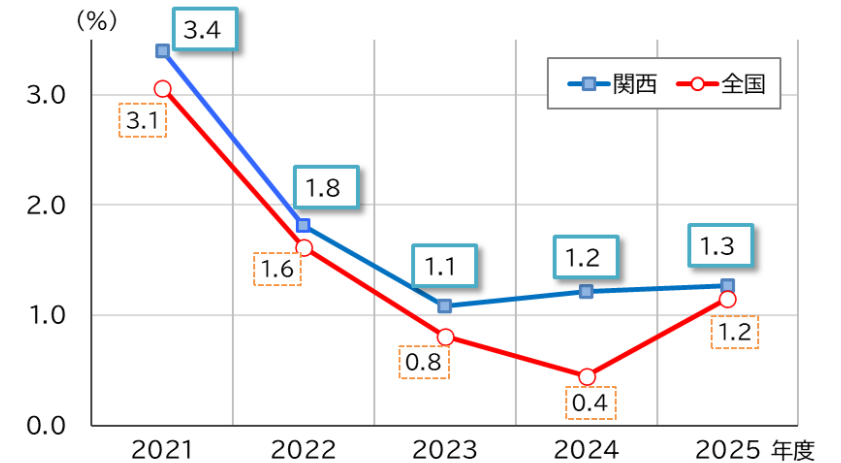
全国



前回予測からの修正・日本経済予測との比較

- 前回予測(24年5月29日公表)に比べて、
 - ・ 24年度：修正なし
 - ・ 25年度：-0.1%ポイント **下方修正**
- **24年度**は個人消費や設備投資など**民間需要**を上方修正したが、輸入の上方修正により**域外需要**が**下方修正**となったため、**全体では修正なし**。**25年度**は**公的需要・域外需要**を**小幅下方修正**とした
- **経済成長率**を日本経済予測と比較すると、**24年度**は**関西**が**全国**を上回り、**25年度**は**ほぼ同程度**となる。**24年度**は設備投資や公共投資など万博関連需要のほか、**外需の押し上げ**により**全国**を上回る**伸び**となる。**25年度**は**関西、全国**とも**民間需要**が**成長の牽引役**

	24年度	25年度
GRP 成長率	修正なし	-0.1%pt
民間需要	+0.3%pt	修正なし
公的需要	-0.1%pt	-0.1%pt
域外需要	-0.1%pt	-0.1%pt

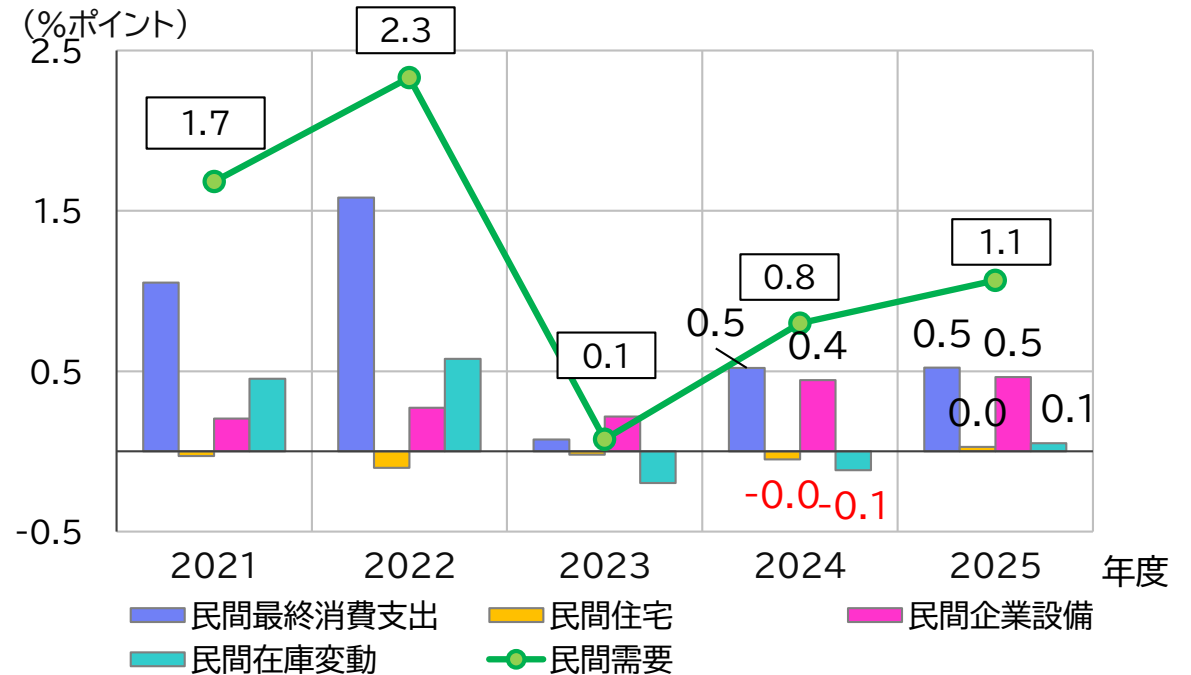


注：四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。

出所：APIR KEIQ No.70

民間部門の寄与

- **GRP成長率に対する民間需要の寄与度**は、**24年度+0.8%ポイント**、**25年度+1.1%ポイント**と予測。民間需要が成長全体を牽引する
- **家計部門の実質GRP成長率に対する寄与度**は**24年度+0.5%ポイント**、**25年度+0.6%ポイント**となる。実質賃金が24年度にプラスに転じ、25年度も回復が続くことで、消費押し上げ要因
- **企業部門は設備投資が底堅く、24年度同+0.3%ポイント**、**25年度で+0.5%ポイント**



関西経済における民間部門の寄与

注：四捨五入の関係で、各構成項目の寄与度を合計しても民間需要の寄与度とは必ずしも合致しない。

出所：APIR KEIQ No.70

リスク要因

- **足下でリスクが多様化**しており、景気の先行きに対する**不透明感が増している**
- **海外要因**としては、**中国・欧米経済の先行きに不透明感が強まる**。**中国经济**は雇用回復の遅れと不動産市場の不況を背景に、内需の低迷から抜け出せていない。**欧米経済**は足下堅調であるものの、米国は大統領選を控え、政局面で不安定な要素
- **国内要因**としては、賃金と物価の動向のほか、株価・為替の乱高下、自然災害リスクの増大、政局の不確実性などが挙げられる

関西経済予測結果表(2024年8月28日予測結果)

年度	関西経済					日本経済				
	2021	2022	2023	2024	2025	2021	2022	2023	2024	2025
民間最終消費支出	1.9	2.9	0.1	1.0	1.0	1.8	2.7	▲ 0.6	0.9	0.9
民間住宅	▲ 0.9	▲ 3.4	▲ 0.7	▲ 1.8	1.0	0.3	▲ 3.3	0.3	▲ 0.8	0.8
民間企業設備	1.3	1.7	1.4	2.8	2.9	3.2	4.1	0.3	2.5	2.6
政府最終消費支出	3.3	1.1	0.3	0.6	0.7	3.2	1.4	▲ 0.5	0.6	0.9
公的固定資本形成	▲ 1.4	0.9	5.1	4.0	▲ 1.5	▲ 6.5	▲ 6.1	0.7	2.3	0.6
輸出	9.3	1.4	1.1	1.6	2.5	12.5	4.9	2.8	0.4	2.7
輸入	▲ 3.1	5.5	▲ 1.1	1.5	2.4	7.3	7.3	▲ 3.2	2.3	2.4
実質域内総生産	3.4	1.8	1.1	1.2	1.3	3.1	1.6	0.8	0.4	1.2
民間需要(寄与度)	1.7	2.3	0.1	0.8	1.1	1.9	2.1	▲ 0.5	0.6	0.9
公的需要(寄与度)	0.8	0.2	0.3	0.3	0.0	0.3	0.0	▲ 0.1	0.2	0.2
域外需要(寄与度)	1.0	▲ 0.7	0.8	0.2	0.2	0.8	▲ 0.5	1.4	▲ 0.4	0.1
名目域内総生産	3.7	3.3	5.3	3.9	3.2	3.0	2.5	4.9	2.8	2.8
GRPデフレーター	0.3	1.5	4.2	2.7	1.9	▲ 0.1	0.9	4.0	2.3	1.6
消費者物価指数	▲ 0.1	2.8	2.8	2.6	1.8	0.0	3.1	2.8	2.3	1.6
鉱工業生産指数	4.8	▲ 1.2	▲ 3.8	0.9	1.5	5.5	▲ 0.3	▲ 1.9	0.5	2.0
完全失業率	3.0	2.9	2.9	2.8	2.5	2.8	2.6	2.6	2.5	2.3

(注)単位%、完全失業率以外は前年度比伸び率。関西経済の2022-23年度は実績見直し、24-25年度は予測値。
日本経済の23年度までは実績値、24年度以降は「第149回景気分析と予測」による予測値。

ブランド力と周遊化に関する分析*：要旨

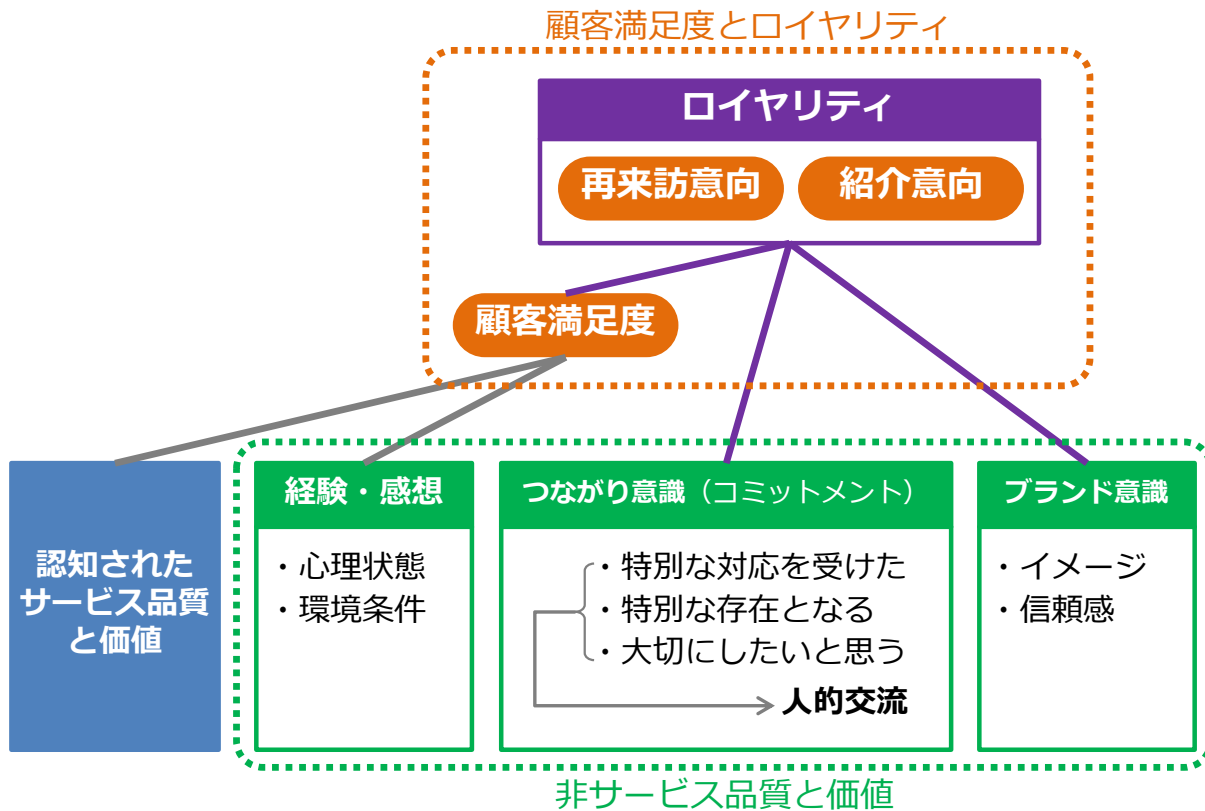
1. 本調査では、**観光地のブランド力を3つの定量的な指標(満足度、紹介意向と再来訪意向)で評価した。紹介意向については、在留外国人の方が日本人より高い傾向にある。紹介意向と総合満足度との関係では、在留外国人の方が日本人よりも、紹介意向の評価が総合満足度のそれを上回っている。すなわち、在留外国人は満足度に関わらず、紹介意向が高い**
2. また、**再来訪意向**についてみると、**欧米豪の人は、日本の観光地に満足し、何度でも行きたいと思っている。これは、彼らは特に日本の文化、自然に関心が強いことが影響していると考えられる。また、日本人やアジアの人は観光地に満足するが、再来訪意向は低く、訪問は1回で十分と考える人が多い。アジアや関西の人は観光地の情報量が多いこともあり、相対的に評価が厳しい**
3. アンケート調査から得られた結果を基に、**旅行者の関心事の高い3つの旅行目的を抽出し、それらの目的を繋いだ属性別の周遊プランを作成した。その結果、日本人に共通する要素としては、「食」、「都市観光」や「買物」がキーワードである。うち、関西在住者と関西以外在住者とでは、幾分異なったルートも考えられる。すなわち、前者は「温泉」が、後者はそれに加え「自然の豊かさ」の体験がキーワードとなっている。在留外国人には、「地域文化」や「自然の豊かさ」を体験するルートが考えられる。これらのルートは、地理的には遠方のエリアを繋いだものとなっているが、外国人の目的からすれば、許容できるものと考えられる**

*APIR Trend Watch No.96参照

アンケート調査の概要

- 本調査では、観光地のブランド力を3つの定量的な指標(満足度、紹介意向と再来訪意向)で評価

アンケートの調査体系



観光目的についての設問項目内容

(1) 文化的な名所旧跡を見ること	(8) 温泉に入ること
(2) 自然景観を見ること	(9) おいしいものを食べること
(3) 観光・文化施設を訪れること	(10) 買い物をすること
(4) スポーツ施設を訪れること	(11) 地域の祭りやイベント
(5) 街や都市を訪れること	(12) 親族や知人訪問
(6) 自然の豊かさを体験すること	(13) その他
(7) 地域の文化を体験すること	

アンケートのイメージ図

		観光地			
		1	2	...	20
旅行目的	名所旧跡	W _{1,1}	W _{2,1}	...	W _{20,1}
	自然景観	W _{1,2}	W _{2,2}	...	W _{20,2}
	食事	W _{1,3}	W _{2,3}	...	W _{20,3}

	その他	W _{1,20}	W _{2,20}	...	W _{20,20}

府県別にみた総合満足度、紹介意向及び再来訪意向

■ 総合満足度、紹介意向及び再来訪意向を旅行者属性で見れば

関西在住者

	総合満足度 (1)	紹介意向 (2)	差 = (2)-(1)	再来訪意向 (3)	差 = (3)-(1)
大阪府	5.88	5.38	-0.49	5.65	-0.22
京都府	5.87	5.48	-0.38	5.40	-0.46
兵庫県	6.02	5.66	-0.36	5.56	-0.45
奈良県	5.98	5.61	-0.37	5.59	-0.39
滋賀県	5.78	5.68	-0.10	5.23	-0.55
和歌山県	6.07	5.59	-0.48	5.35	-0.72
関西平均	5.93	5.57	-0.36	5.47	-0.46

関西以外在住者

	総合満足度 (1)	紹介意向 (2)	差 = (2)-(1)	再来訪意向 (3)	差 = (3)-(1)
大阪府	5.78	5.59	-0.19	5.51	-0.27
京都府	5.93	5.87	-0.07	5.66	-0.27
兵庫県	5.82	5.56	-0.26	5.20	-0.61
奈良県	6.19	5.83	-0.36	5.78	-0.41
滋賀県	5.92	5.55	-0.38	5.31	-0.61
和歌山県	5.98	5.33	-0.65	4.37	-1.61
関西平均	5.92	5.64	-0.28	5.39	-0.53

アジア

	総合満足度 (1)	紹介意向 (2)	差 = (2)-(1)	再来訪意向 (3)	差 = (3)-(1)
大阪府	6.03	6.07	0.03	5.35	-0.68
京都府	6.08	5.90	-0.18	5.63	-0.45
兵庫県	6.03	6.21	0.18	5.35	-0.68
奈良県	6.27	6.20	-0.07	5.47	-0.80
滋賀県	5.45	6.05	0.60	4.50	-0.95
和歌山県	6.00	6.00	0.00	4.94	-1.06
関西平均	6.02	6.07	0.06	5.31	-0.71

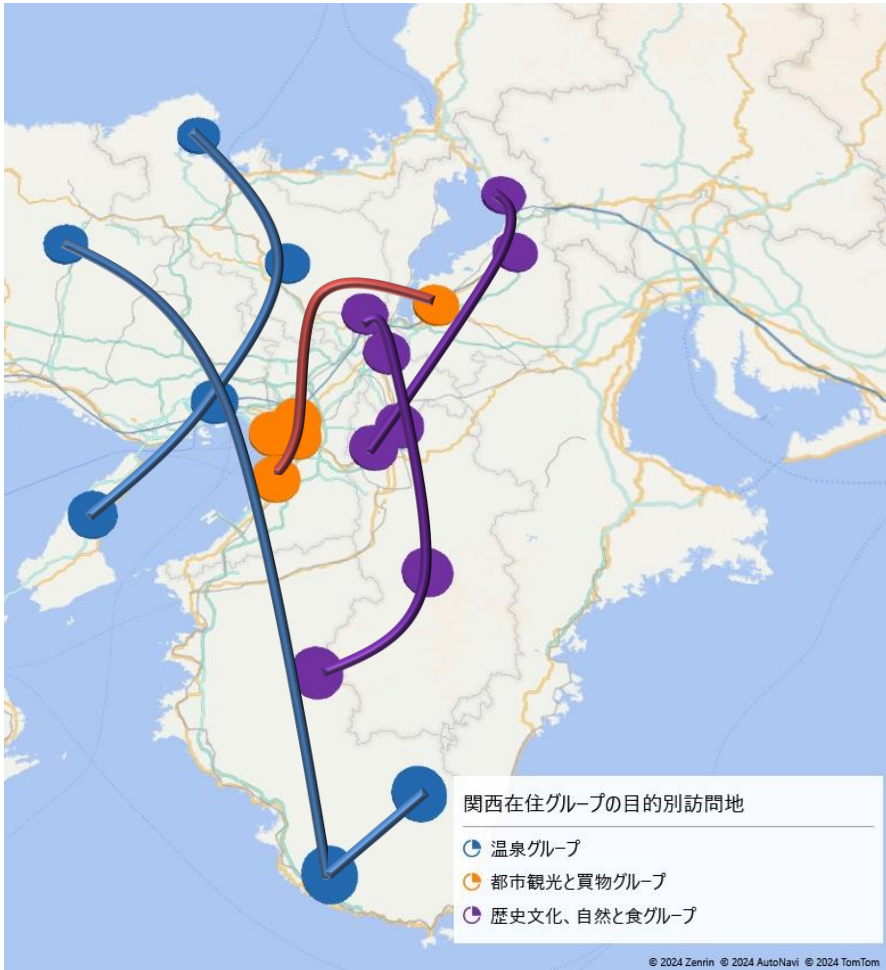
欧米豪

	総合満足度 (1)	紹介意向 (2)	差 = (2)-(1)	再来訪意向 (3)	差 = (3)-(1)
大阪府	6.20	6.08	-0.12	5.67	-0.53
京都府	6.16	6.12	-0.04	5.86	-0.31
兵庫県	5.84	5.84	0.00	5.64	-0.20
奈良県	6.09	6.33	0.24	5.91	-0.18
滋賀県	5.88	6.19	0.31	5.88	0.00
和歌山県	6.11	6.46	0.36	5.75	-0.36
関西平均	6.09	6.17	0.08	5.78	-0.31

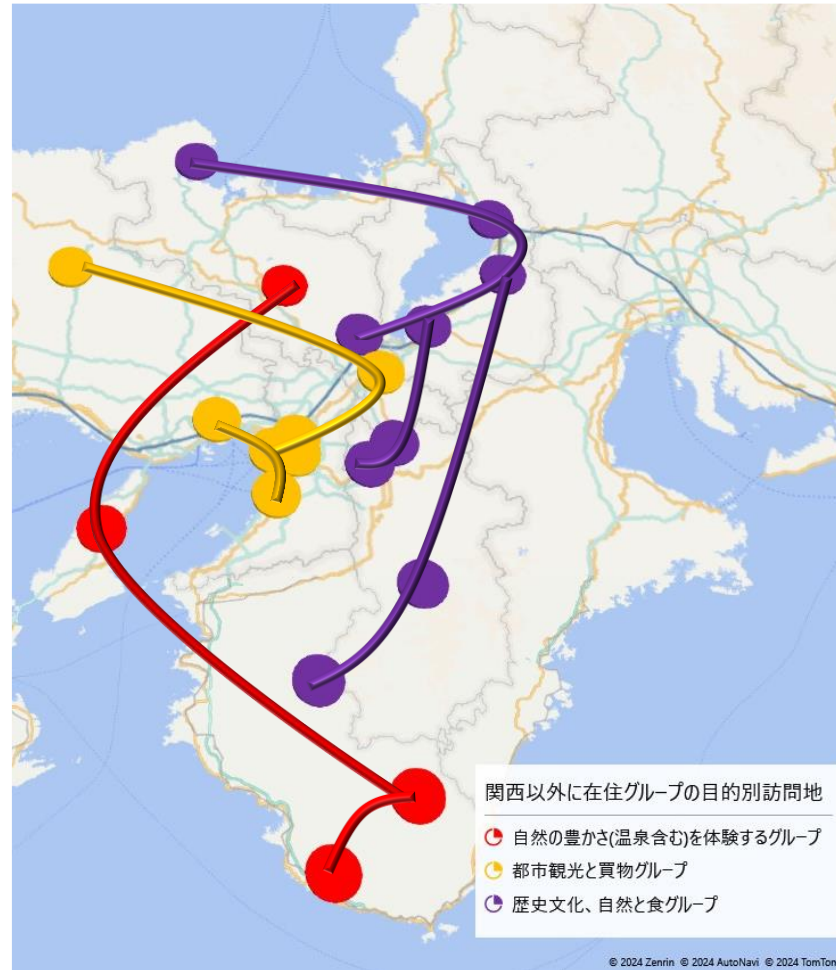
旅行目的に基づく属性別の周遊プラン

■ 旅行者の関心事の高い3つの旅行目的を抽出し、それらの目的を繋いだ属性別の周遊プランを作成

目的別訪問地：関西在住者



目的別訪問地：関西以外在住者



目的別訪問地：在留外国人



【参考図表】分析対象となる関西の観光地

大阪-キタ	01.大阪城 02.大阪天満宮 03.天神橋筋商店街 04.梅田スカイビル 05.その他
大阪-ベイ	06.ユニバーサルスタジオジャパン 07.海遊館 08.天保山 09.レゴランド 10.その他
大阪-ミナミ	11.道頓堀 12.黒門市場 13.通天閣 14.四天王寺 15.住吉大社 16.あべのハルカス 17.その他
大阪-泉州	18.百舌鳥古市古墳群 19.りんくうタウン 20.堺伝巧館 21.利晶の社 22.その他
京都-京都市内	23.清水寺 24.伏見稲荷大社 25.金閣寺 26.二条城 27.下賀茂神社 28.嵐山 29.龍安寺 30.祇園 31.美術館・博物館 32.その他
京都-丹後	33.天橋立 34.伊根の舟屋 35.元伊勢籠神社 36.その他
京都-南丹	37.美山かやぶきの里 38.るり溪 39.その他
京都-宇治	40.平等院 41.三室戸寺 42.宇治橋 43.宇治市源氏物語ミュージアム 44.宇治上神社 45.その他
兵庫-阪神	46.三宮・元町・ハーバーランド 47.六甲山・摩耶山 48.有馬温泉 49.灘五郷 50.宝塚歌劇 51.その他
兵庫-姫路・播但	52.姫路城 53.姫路セントラルパーク 54.書寫山圓教寺 55.竹田城跡 56.城崎温泉 57.出石 58.竹野海岸 59.その他
兵庫-淡路島	60.鳴門海峡 61.明石海峡大橋 62.洲本城 63.新五色浜県民サンビーチ 64.その他
奈良-奈良市内	65.東大寺 66.奈良公園 67.興福寺 68.春日大社 69.薬師寺 70.唐招提寺 71.春日山原始林 72.奈良国立博物館 73.その他
奈良-斑鳩	74.法隆寺 75.法起寺 76.その他
奈良-吉野・明日香	77.明日香村 78.吉野山 79.金峰山寺・金峰神社 80.吉水神社 81.大峰山 82.天河・洞川温泉 83.玉置山・玉置神社 84.その他
滋賀-湖北	85.長浜城 86.黒壁スクエア 87.伊吹山 88.竹生島 89.その他
滋賀-大津	90.石山寺 91.琵琶湖 92.三井寺 93.三井アウトレットパーク志賀竜王 94.ミホミュージアム 95.その他
滋賀-湖東	96.彦根城 97.多賀大社 98.百済寺 99.その他
和歌山-白浜・串本	100.橋杭岩 101.千畳敷 102.白浜温泉 103.アドベンチャーワールド 104.串本海中公園・潮岬 105.とれとれ市場 106.その他
和歌山-高野山	107.高野山・金剛峯寺 108.奥の院 109.その他
和歌山-熊野	110.熊野古道 111.那智勝浦 112.熊野本宮大社 113.熊野速玉大社 114.湯の峰温泉 115.その他